

は じ め に

「わくわく 算数」は、実際指導にあたっておられる先生方をはじめ、広く関係者の方々のご意見を十分取り入れ、学びやすく教えやすい教科書を目指して編集を行いました。

本資料は、教科書の編集意図・指導内容・指導時数などを簡潔にまとめたものでございます。教科書の改訂にともない、先生方には、指導計画の立て直しなどお手数をおかけすることになりますが、「わくわく 算数」の概要をおつかみいただき、カリキュラム編成のためのご参考にしていただければ幸甚でございます。

啓林館算数編集部

目 次

■ 「わくわく 算数」の編集基本方針と構成	p. 2
■ 各学年の単元一覧表と単元別学習内容一覧	
第1学年	p. 4
第2学年	p. 14
第3学年	p. 26
第4学年	p. 40
第5学年	p. 54
第6学年	p. 66

「わくわく 算数」の編集基本方針と構成

■目標

- 1 興味・関心をもちながら、生活上必要な算数的知識・技能を習得できるようにする。
- 2 筋道を立てて考え、ものごとを合理的に処理できるようにする。
- 3 新しいものごとを理解し、自ら進んで生活の中で活用したり創造する能力と態度を育てる。

■編集上とくに留意した点

1 子どもの学習意欲をそそる工夫

- ・児童が興味・関心をもって学習に取り組めるように身近な生活場面から導入しています。
- ・デザイン・レイアウトやイラストを一新し、新しいキャラクターを設定して、児童が興味を持って、主体的に学習が進められるようにしています。

2 子どもの主体的な学習をサポートする紙面構成

- ・児童の主体的な学習を支援できるように答えを問題の裏ページに掲載したり、書き込み形式を採用して、解決の過程や答えが見えない配慮をしました。また、問題と答えを見比べたい場面では折り込みを採用しました。

3 系統性を重視した教材配列

- ・テープ図、線分図、関係図など問題解決の際に有効にはたらく図についても、〈ドルフィンのまほう学校〉で段階を追って系統的に扱っています。

4 確かな学力を養う教材

- ・巻末には教具として使える切り取り付録を付け、児童が学習内容を体験的に感得できるようにしました。

5 評価と繰り返し学習による基礎・基本の定着

- ・単元導入時に既習事項と結びつけて課題を設定したり、適宜復習のページを設定して基礎的事項の理解が維持できるように配慮しました。
- ・単元末の〈たしかめ道場〉に4観点に即した評価問題を設定しました。また、〈ふりカエル〉マークで関連ページを示し、基礎・基本が確実に身につくようにしました。

■配当時数について

- 1 各単元毎に、単元の指導に必要と考えられる目安となる時数を配当しており、「練習」も各単元の時数に含めています。
- 2 教科書では年間標準指導時数よりも各学年15~31時間分の予備時間を設けています。
また、2学期制、3学期制のいずれにも対応できるように単元配列を配慮しています。

■教科書の構成と記号の意味

【単元】 単元は、単元番号のついた大単元と番号のない準単元とに分けられます。準単元は1つの単元として独立するには量的に少ないものや系統的に独立した内容を取り上げ、扱いの自由度を増しました。

【単元とびら】 新しい単元に入る直前に、その内容と関連のある話題を取り上げ、子どもたちが興味をもって取り組めるようにしています。

【課題設定】 各単元の導入に、その単元で学習する課題を設定するページです。子どもたちの不思議だな[?]とやってみたいな[!]を取り上げ、子どもたちが主体的に新しい課題をみつけられるようにしています。

【主問題】 印の問題は、各時間の主問題です。一斉学習による学習を想定しており、適宜、
 印のキー発問を設けて解決のヒントを与えてています。主に一斉学習を想定しています。

【評価問題】 印の問題は、主問題よりも少し進んだ内容を含んでおり、主問題の定着度を評価することができます。個別学習を想定していますが、実態に応じて一斉学習で扱うこともできます。

【適用・練習問題】 印の問題は、テーマ問題や評価問題の適用・計算練習です。特に計算については、問題番号の色によって計算の型分けをし、最低限必要な型を示しています。また、問題数がたりない場合は、各巻末の「計算のくり返し練習」から選んで補うことができます。

【ブルーゾーン】 第4～6学年では、ページの右側に青色のゾーンを設け、子どもの思考過程に沿ったきっかけとふりかえりを掲載しています。ブルーゾーンには子どもが自分の考えなどを書き込みながら学習を進めることもできます。

【たしかめ道場】 各単元末に設定し、観点別に評価問題を取り上げています。その問題と関連のある本文ページをくふりカエルで示し、自己評価をしながら、基礎・基本の定着が図れるようにしています。また、第2学年以上では、第1単元末に〈学習の感想〉の事例も示して情意面の評価にも役立つようにしています。

【みらいへのつなざ】 各単元末と各巻末に設定しています。直前の「たしかめ道場」で基礎・基本事項を確認した後、子どもの興味・関心に応じて、ステップ(補充課題), ジャンプ(発展課題)を選択して学習を進められます。少人数学習や習熟度別学習の課題として扱うことも可能で、すべての児童が一律に学習する必要がないため、時間配当はしていません。

※ 印のついたところは、学習指導要領に示されていない内容を含んでいます。

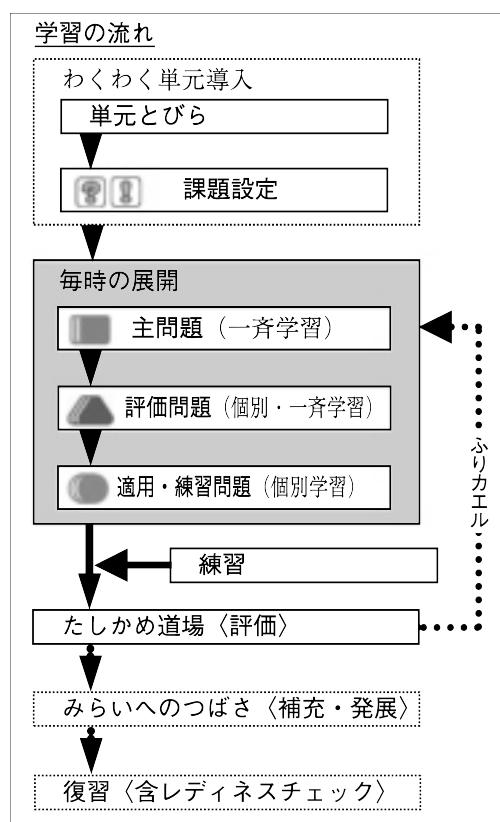
【ドルフィンのまほう学校】 問題解決に有効に働く考え方(思考法)を整理し、学年を追って系統的に取り上げています。児童の学習意欲を喚起できるようにメルヘン調の楽しい場面を設定しています。また、テープ図や線分図などのかき方についても取り上げています。

【練習】 直前の学習内容の定着を図るため、適宜、小単元末に設定しています。

【復習】 既習事項の理解の持続のため、複数単元毎に設定しています。また、必要に応じて、次単元のレディネスチェック問題を設定しています。

【もうすぐ○年生】 学年末の総復習で、領域毎に定着の確認ができます。(第6学年は「6年のまとめ」)

【算数島の大冒険】 卒業前、児童が主体的に学習を進めることができるように6年の学年末に設定しています。なお、発展的な内容を含むため、時間配当をしていません。



第1学年 単元一覧表

2学 期制	3学 期制	大単元	配当 時数	指導内容 <用語・記号>
4 月 (9)	4 月 (9)	(オリエンテーション)	3	<ul style="list-style-type: none"> • 数へのいざない、集合数の意識づけ • 1対1対応
		1. かずと すうじ	9	<ul style="list-style-type: none"> • 5までの数の概念と命数法 • 5までの数字とかき方 • 5までの数の合成・分解 • 10までの数の概念と命数法 • 10までの数字とかき方
5 月 (13)	5 月 (13)	2. なんばんめ	2	<ul style="list-style-type: none"> • 上下、左右、前後の順序数 • 順序数と集合数
		3. いくつと いくつ	7	<ul style="list-style-type: none"> • 6の合成・分解 • 7の合成・分解 • 8の合成・分解 • 9の合成・分解 • 10の合成・分解 • 0の概念と意味
6 月 (14)	6 月 (14)	4. いろいろな かたち	2	<ul style="list-style-type: none"> • 箱などによる形づくり • 形の弁別
		* ふくしゅう	1	• 既習内容の理解の確認と持続
		● ふえたり へったり	1	• 増減の事象、たし算・ひき算の素地
		5. あわせて いくつ ふえると いくつ	7	<ul style="list-style-type: none"> • 合併の場面理解 <しき, +, =, たしざん> • 合併の場面をたし算の式で表すこと • 増加の場面理解 • 増加の場面をたし算の式で表すこと • たし算の作問（おはなしづくり）
		* ふくしゅう	1	• 既習内容の理解の確認と持続
		6. のこりは いくつ ちがいは いくつ	9	<ul style="list-style-type: none"> • 求残の場面理解 <-, ひきざん> • 求残の場面をひき算の式で表すこと • 求部分の場面をひき算の式で表すこと • 求差の場面理解 • 求差の場面をひき算の式で表すこと • ひき算の作問（おはなしづくり）
		* ふくしゅう	1	• 既習内容の理解の確認と持続
1学期(3学期制)の時数			43時間 (予備時数2時間) [標準時数:45時間]	
8~9 月 (12)	9 月 (12)	7. 10より おおきい かず	6	<ul style="list-style-type: none"> • 20までの数の記数法 • 20までの数の系列、大小比較、2とび5とびの数の数え方 • 10といくつに着目した計算
		8. ながさくらべ	2	<ul style="list-style-type: none"> • 長さの直接比較、間接比較 • 任意単位による長さの測定
前期(2学期制)の時数			51時間 (予備時数6時間) [標準時数:57時間]	

2学期制	3学期制	大单元	配当時数	指導内容 <用語・記号>
10月(12)	10月(12)	9. 3つの かずの けいさん	4	<ul style="list-style-type: none"> • 3口のたし算 ($a+b+c$) • 3口のひき算 ($a-b-c$) • 加減混合の3口の計算 ($a-b+c, a+b-c$)
		* ふくしゅう	1	<ul style="list-style-type: none"> • 既習内容の理解の確認と持続, レディネスチェック
		10. たしざん	9	<ul style="list-style-type: none"> • 操作による繰り上がりのあるたし算の仕方の理解 • 繰り上がりのあるたし算のイメージ化 • $9+8$などの被加数>加数の計算の一般化 • $4+8$などの被加数<加数の計算と被加数分解によるたし算
		● かたちを うつして	1	<ul style="list-style-type: none"> • 立体の面を写した絵描き遊び・面の組み合わせによる絵描き遊び
	11月(15)	* ふくしゅう	1	<ul style="list-style-type: none"> • 既習内容の理解の確認と持続, レディネスチェック
		11. ひきざん	10	<ul style="list-style-type: none"> • 操作による繰り下がりのあるひき算の仕方の理解 • 繰り下がりのあるひき算のイメージ化 • 減数>5の場合のひき算の一般化 • 減数>5の場合のひき算と減々法によるひき算
		● たすのかな ひくのかな	2	<ul style="list-style-type: none"> • 加減の演算決定問題, 作問
12月(9)	12月(9)	12. 0の たしざんと ひきざん	2	<ul style="list-style-type: none"> • 0の加減計算
		● ものと ひとのかず	2	<ul style="list-style-type: none"> • ものと人の数を対応させた加減計算 • 順序数の問題
	1月(8)	* ふくしゅう	1	<ul style="list-style-type: none"> • 既習内容の理解の確認と持続
		2学期(3学期制)の時数		41時間 (予備時数7時間) [標準時数: 48時間]
		13. 大きい かず	11	<ul style="list-style-type: none"> • 100までの数の概念, 10とび5とびの数え方の工夫 • 100までの数の記数法 <一のくらい, 十のくらい, 100> • 100までの数の構成 • 100という数の概念 • 100までの数の大小, 系列 • 10を単位とする簡単な加減計算
2月(8)	2月(8)	● おおい ほう すくない ほう	2	<ul style="list-style-type: none"> • 求大, 求小の問題
		* もうすぐ 2ねんせい	2	<ul style="list-style-type: none"> • 第1学年の総復習
	3月(5)	◆ みらいへの つばさ	—	<ul style="list-style-type: none"> おかげものごっこ/つきめぐりすごろく/10こつかって/あらわしてみよう
		3学期(3学期制)の時数		15時間 (予備時数6時間) [標準時数: 21時間]
後期(2学期制)の時数		48時間 (予備時数9時間) [標準時数: 57時間]		

年間総時数

99時間 (予備時数15時間) [標準時数: 114時間]

注1：月の欄の()の数字は、月当たりの指導時数ですが、標準時数が年間の週の数で割り切れないため、目安を示しています。

注2：指導時数には復習の時間も含んでいます。復習を柔軟に扱うことで、予備時間はさらに増えます。

注3：<>内の太字はその单元で学習する新しい用語・記号です。

第1学年 単元別学習内容一覧

(オリエンテーション)				
目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	1～5	<ul style="list-style-type: none"> 数量への関心の動機づけ ものの集まりに着目すること 1対1対応による数の大小の判断 	<ul style="list-style-type: none"> ものの集まりに着目したり、条件に応じて、1つの集まりと見なすことができる。(関)(表) 2つの集合の個数を、1対1に対応づけて比べることができる。(考)(表)(知) 	3

1 カズと すうじ

1 カズと すうじ				
目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点	時数
5までのかず	6～9	<ul style="list-style-type: none"> 5までの数の概念(数のよみ方・かき方、数の系列) 5までの数の合成・分解 	<ul style="list-style-type: none"> 5までの数について、よんだり、かいたり、合成・分解ができる。(表)(知) 	4
10までのかず	10～13	<ul style="list-style-type: none"> 10までの数の概念(数のよみ方、かき方、数の系列) 	<ul style="list-style-type: none"> 10までの数について、よんだり、かいたりできる。(表)(知) 	3
かずあそび	14～15	<ul style="list-style-type: none"> 10までの数についての系列、大小比較 	<ul style="list-style-type: none"> 10までの数について、並べたり、比べたり、みつけたり、数えたりすることができる。(関)(考)(表) 	2

2 なんばんめ

2 なんばんめ				
目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	16～18	<ul style="list-style-type: none"> 順序数の概念 集合数(計量数)と順序数の理解 方向や位置の表し方(前後、上下、左右) 	<ul style="list-style-type: none"> 順序数としての数の意味を知り、集合数との区別ができる。(考)(表)(知) 方向や位置を表すことばを正しく用いて、ものの位置を表すことができる。(考)(表)(知) 	2

3 いくつと いくつ

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
• 6, 7, 8, 9 の合成・分解ができる。 • 10 の合成・分解ができ、10 の補数が理解できる。 • 数としての 0 の意味が理解できる。		A(1)ア, エ	7 時間 2 学期制：5 月中旬～下旬 3 学期制：5 月中旬～下旬
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点
	19～26	• 6, 7, 8, 9 の合成・分解 • 10 の合成・分解、10 の補数	• 10 までの数について、合成・分解ができる、10 の補数を求めることができる。 (考)(表)(知)
0 という かず	27	• 数としての 0 の意味	• 数としての 0 の意味が理解できる。(考)(知)

4 いろいろな カたち

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
• 空き箱や空き缶、積み木などによる立体の組み立てを通して、ものの形を認めたり、形の特徴をとらえることができる。		C(1)ア	2 時間 2 学期制：6 月上旬 3 学期制：6 月上旬
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点
	28～30	• 空き箱や空き缶、積み木などによる立体の構成によるものの形の観察 • 立体図形の弁別と形探し	• ものの形の観察を通して、形の特徴をとらえることができる。(関)(表) • 形に着目して、立体図形の弁別ができる。(考)(知)

ふくしゅう

ページ	学習内容	指導時数・時期
31	• 既習事項の理解の確認と持続	1 時間 2 学期制：6 月上旬 3 学期制：6 月上旬

● ふえたり へつたり

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
• 次々に変化していく数量に着目し、数の増減の意味をつかむ。		A(2)ア	1 時間 2 学期制：6 月中旬 3 学期制：6 月中旬
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点
	32～33	• エレベータごっこを通した、連続的な数の増減事象の体験	• 次々に変化していく数量に着目し、活動を通して、その意味が理解できる。 (考)(知)

5 あわせて いくつ ふえると いくつ

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
• たし算が用いられる場面(合併・増加)を知り、たし算の記号や式のよみ方、かき方を理解する。 • (1位数)+(1位数)<10 のたし算ができる。		A(2)	7時間 2学期制：6月中旬～下旬 3学期制：6月中旬～下旬
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点
あわせて いくつ	34～35	• 合併の場面とたし算の意味理解、たし算の式 たしざん, +, =, しき	• 数図ブロックを操作して合併の場面をとらえ、答えを求めることができる。 (考)(表)(知)
ふえると いくつ	36～37	• 増加の場面とたし算の意味理解 • 10までの数のたし算	• 数図ブロックを操作して増加の場面をとらえ、10までの数のたし算ができる。 (考)(表)(知)
こうえん	38	• たし算のお話づくり	• 絵を見て、いろいろなたし算のお話づくりができる。 (関)(表)(知)
たしざんの かあど	39	• カードを使ったたし算の計算練習	• 進んでカードを使ったたし算の練習をする。(関)(表)

ふくしゅう

ページ	学習内容	指導時数・時期
40～41	• 既習事項の理解の確認と持続	1時間 2学期制：6月下旬 3学期制：6月下旬

6 のこりは いくつ ちがいは いくつ

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
• ひき算が用いられる場面(求残・求部分・求差)を知り、ひき算の記号や式のよみ方、かき方を理解する。 • (10以下の数)-(1桁)のひき算ができる。		A(2)	9時間 2学期制：6月下旬～7月 中旬 3学期制：6月下旬～7月 中旬
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点
のこりは いくつ	42～44	• 求残・求部分(求補)の場面とひき算の意味理解、ひき算の式 ひきざん, -	• 数図ブロックを操作して、求残・求部分の場面をとらえ、(10以下)-(1桁)のひき算ができる。(考)(表)(知)
ひきざんの かあど	45	• カードを使ったひき算の計算練習	• 進んでカードを使ったひき算の練習をする。(関)(表)
ちがいは いくつ	46～48	• 求差の場面とひき算の意味理解	• 数図ブロックを操作して、求差の場面をとらえ、ひき算になることを理解する。(考)(表)(知)
うみ	49	• ひき算のお話づくり	• 絵を見て、いろいろなひき算のお話づくりができる。(関)(表)(知)

ふくしゅう

ページ	学習内容	指導時数・時期
50～51	既習事項の理解の確認と持続	1時間 2学期制：7月中旬 3学期制：7月中旬

7 10より あおきい カず

目 標	指導要領の該当項目	指導時数・時期		
• 具体に即して 20までの数の数え方、よみ方、かき方を理解する。 • 数を数直線上に表し、20までの数の系列・大小を理解する。	A(1)イ, ウ, エ, (3)	6時間 2学期制：9月上旬～中旬 3学期制：9月上旬～中旬		
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	52～55	• 20までの数の理解、大小 • 2とび、5とびで数えること	• 20までの数について、よみ方、かき方を理解し、大小判断ができる。(表)(知)	3
かずの ならびかた	56～57	• 20までの数の系列	• 20までの数の系列について理解できる。(表)(知)	1
10といいくつ	58～59	• (十何)の数についての 10といいくつの合成・分解	• (十何)の数について、10といいくつの合成・分解できる。(表)(知)	2

8 ながさくらべ

目 標	指導要領の該当項目	指導時数・時期		
• 実際のものについて長さを比較し、長さの概念を養う。	B(1)	2時間 2学期制：9月中旬～下旬 3学期制：9月中旬～下旬		
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	60～62	• 長さの直接比較、間接比較、任意単位による測定	• 直接比較、間接比較、任意単位による測定により、長さの大小比較ができる。 (考)(表)(知)	2

9 3つの カズの けいさん

目 標	指導要領の該当項目	指導時数・時期		
• 具体的場面に基づいて、3口の数の加減計算ができる。	A(2)	4時間 2学期制：10月中旬 3学期制：10月上旬～中旬		
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	63～65	• 具体的操作に基づく3つの数のたし算・ひき算	• 具体的操作に基づいて、3口の加減の場面を理解し、計算ができる。(考)(表)(知)	4

ふくしゅう

ページ	学習内容	指導時数・時期
66	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の理解の確認と持続 次単元のレディネスチェック 	1時間 2 学期制：10月中旬 3 学期制：10月中旬

10 たしざん

目 標	指導要領の該当項目	指導時数・時期		
• (1桁)+(1桁)で繰り上がりのあるたし算の仕方を理解し、計算ができる。	A(2)	9時間 2 学期制：10月中旬～ 11月上旬 3 学期制：10月中旬～ 11月上旬		
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	67～71	<ul style="list-style-type: none"> (1桁)+(1桁)で繰り上がりのあるたし算 	• 繰り上がりに注意して、(1桁)+(1桁)の計算ができる。(考)(表)	4
たしざんのかあど	72	• カードを使ったたし算の計算練習	• 進んでカードを使ったたし算の練習をする。(関)(表)	4
たしかめどうじょう	73	• 4観点にそった評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	74	ステップ「たしざんれっしゃ」 <ul style="list-style-type: none"> (1桁)+(1桁)>10 の計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。(関)(考)(表) 	• (1桁)+(1桁)>10 の計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。(関)(考)(表)	—
		ジャンプ「たしざんのまきもの」 <ul style="list-style-type: none"> 2桁の加法の計算 	• 答えが一定になるたし算を考えることで、2桁の計算についても考えることができる。(関)(考)	

● かたちを うつして

目 標	指導要領の該当項目	指導時数・時期		
• 立体の面に着目し、写しとったり、その形を活用して絵描き遊びができる。	C(1)ア	1時間 2 学期制：11月上旬 3 学期制：11月上旬		
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	75	• 立体の面を写し取った形を使って、いろいろな絵描き遊びをする。	• 立体の面を写し取った形を使っていろいろな絵を描くことができる。(関)(表)	1

ふくしゅう

ページ	学習内容	指導時数・時期
76	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の理解の確認と持続 次単元のレディネスチェック 	1時間 2 学期制：11月上旬 3 学期制：11月上旬

11 ひきざん

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
• (十何) - (1桁)で繰り下がりのあるひき算の仕方を理解し、計算ができる。		A(2)	10 時間 2 学期制：11月中旬～下旬 3 学期制：11月中旬～下旬
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点
	77～81	• (十何) - (1桁)で、繰り下がりのあるひき算	• 繰り下がりに注意して、(十何) - (1桁)のひき算ができる。(考)(表)
ひきざんのかあど	82	• カードを使ったひき算の計算練習	• 進んでカードを使ったひき算の計算をする。(関)(表)
しりとり	83	• カードを使った加減計算の総合練習	• 進んでカードを使ったしりとりの加減計算の練習をする。(関)(表)(知)
たしかめどうじょう	84	• 4 観点にそった評価とふりかえり	1
みらいへのつばさ	85	ステップ「ひきざんれっしゃ」 • (十何) - (1桁) < 10 の計算の仕方	• (十何) - (1桁) < 10 の計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。(関)(考)(表)
		ジャンプ「ひきざんのまきもの」 • (十何) - (2桁)の計算	• 答えが一定になるひき算を考えることで、(十何) - (2桁)の計算についても考えることができる。(関)(考)

● たすのかな ひくのかな

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
• 加減の演算を適切に選び、立式・計算ができる。		A(2)	2 時間 2 学期制：12月上旬 3 学期制：12月上旬
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点
	86～87	• 加減の演算決定問題	• 場面に応じて加減の演算を適切に選んで立式し、答えを求めることができる。(表)(知)

12 0のたしざんとひきざん

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
• 0を含むたし算、ひき算の意味を理解し、計算ができる。		A(2)	2 時間 2 学期制：12月上旬～中旬 3 学期制：12月上旬～中旬
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点
	88～89	• 玉入れ遊びによる0を含む加減計算の意味と計算の仕方	• 0を含む加減計算の意味を理解し、計算ができる。(表)(知)

● ものとひとのかず

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• ある数量を他の数量に置き換えて解くことができる。 • 順序数についても理解を深める。		A(2)	2時間 2学期制：12月中旬～下旬 3学期制：12月中旬～下旬	
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	90	• ものと人を対応させた加減計算	• ある数量を他の数量と対応させ、置き換えて解くことができる。(考)(表)	1
なんばんめ	91	• 順序数の問題	• 集合数と順序数の違いに気をつけて、問題を解くことができる。(考)(表)	1

ふくしゅう

ページ	学習内容	指導時数・時期
92～93	• 既習事項の理解の確認と持続	1時間 2学期制：12月下旬 3学期制：12月下旬

13 大きいかず

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• 100までの数について10ずつまとめて数え、2位数の概念を養う。 • 位取りの考えに基づいて2位数の表し方を理解する。 • 100までの数について系列を理解し、大小判断ができる。	A(1), (3)	11時間 2学期制：1月中旬～2月 下旬 3学期制：1月中旬～2月 下旬		
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点	時数
かずのかぞえかた	94～95	• 10ずつまとめて数え、2位数の数え方を理解する。	• 10ずつまとめて数える活動を通して、100までの数を数えることができる。(考)(知)	1
かずのかきかた	96～97	• 位取りの考えに基づく2位数の表し方 一のくらい, 十のくらい	• 位取りの考えを知り、2位数のかき方を理解する。(考)(知)	2
100までのかず	98～101	• 100という数の理解と100までの数についての大小判断と系列 100	• 100という数について知り、100までの数の大小判断と系列を理解する。(表)(知)	5
10がいくつ	102	• (何十)という数の合成・分解	• (何十)という数について、10を単位とした合成・分解ができる。(考)(表)	1
さがしてみよう	103	• 100までの数字を身のまわりからみつけること	• 進んで身のまわりから100までの数をみつける。(関)(表)	1
たしかめどうじょう	104～105	• 4観点にそった評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	106	ステップ「かずの ふうせん」 • 100までの数のしくみ、大小・系列	• 100までの数のしくみを理解し、大小の判断ができる。(関)(考)(表)	—
	107	ジャンプ「100の つぎは なに？」 • 100をこえる数に触れるこ	• 100をこえる数についても同じしくみでできていることに気づく。(関)(考)(知)	

● あおい ほう すくない ほう				
目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• 2つの量について、小さい方の数量と差を知って、大きい方の数量を求めることができる。(求大) • 2つの量について、大きい方の数量と差を知って、小さい方の数量を求めることができる。(求小)		A(2)	2時間 2学期制：3月上旬 3学期制：3月上旬	
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	108~109	• 求大・求小の問題	• 求大・求小の場面を知り、問題を解くことができる。 (考)(表)	2

もうすぐ 2ねんせい（1年の復習）				
ページ	学習内容		指導時数・時期	
110~112	• かず • けいさん • たしざんとひきざんをつかって		2時間 2学期制：3月上旬～中旬 3学期制：3月上旬～中旬	

みらいへの つばさ				
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点	時数
おかいものごっこ	114~115	• 100までの数の見方を使った、買い物の場面におけるおかねの出し方	• 場面に応じ、硬貨を組み合わせて適切な額を構成できる。 (関)(表)(知)	—
つきめぐりすごろく	116	• 加減計算のすごろくゲーム	• 2つのさいころの目の和と差のうち、適切な方を選んですごろくをすることができる。 (関)(考)(表)	
10こ つかって	117	• 数図ブロックを使った3口以上の式表示	• 10個の数図ブロックをいろいろに並べ替え、それを式に表すことができる。 (関)(考)(表)	
あらわして みよう	118~119	• $30+4$, $50+20$, $45+3$, $34-4$, $60-20$, $45-3$ 等の計算	• 繰り上がりや繰り下がりのない簡単な2位数までの計算ができる。 (関)(考)(表)	

*単元末および巻末にある「みらいへのつばさ」には、少人数学習など個に応じた柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。すべての児童が一律に学習する必要はありません。

第2学年 単元一覧表

上巻

2学 期制	3学 期制	大単元	配当 時数	指導内容 <用語・記号>
4月 (11)	4月 (10)	1. ひょう・グラフと とけい	5	• 表とグラフのかき方 <ひょう, グラフ> • 時計のよみ, おはなしづくり <時, 分>
		2. たし算と ひき算	9	• (2位数)+(1位数)の暗算 • (何十・何十何)+(何十)の暗算 • (2位数)-(1位数)の暗算 • (何十・何十何)-(何十)の暗算
		3. 長さ	8	• 長さの概念 • 長さの普遍単位「センチメートル」の理解と測定 <cm, センチメートル> • 普遍単位「ミリメートル」の理解, ものさしによる測定 <mm, ミリメートル, たんい> • 複名数と単名数の関係 <直線> • 直線の作図, 長さづくり • 簡単な長さの加減計算
		4. たし算と ひき算の ひっ算(1)	9	• (2位数)+(2位数)で答えが2位数になる筆算 <ひっ算> • 加法の交換法則と答えの確かめ • (2位数)-(2位数)の筆算 • 加法と減法の相互関係と減法の答えの確かめ
		◎ かくれた数は いく つ	4	•はじめはいくつかを考えて解く問題, 加法と減法の相互関係 •減ったのはいくつかを考えて解く問題 •増えたのはいくつかを考えて解く問題
		* ふくしゅう	2	•既習内容の理解の確認と持続
		5. 1000までの 数	10	• 1000未満の数の表し方 <百のくらい> • 10を単位とする数の相対的な見方 • 1000という数の意味 <1000, 千> • 1000までの数の系列, 大小比較 • 10を単位とする簡単なたし算・ひき算
		* ふくしゅう	2	•既習内容の理解の確認と持続
		● 形づくり	4	•色板による形の構成(面構成) •棒による形の構成(線構成) •点つなぎによる形の構成(点構成)
		1学期(3学期制)の時数		53時間 (予備時数3時間) [標準時数: 56時間]
8~9 月 (20)	9月 (17)	◎ ふえたり へったり	3	•増増の場面で, 順に考えたりまとめたりして解く問題 •増増, 減減の場面で, まとめて考えて解く問題
		● 計算の じゅんじょ	1	•加法の結合法則と()の使い方
		* ふくしゅう	2	•既習内容の理解の確認と持続
		6. たし算と ひき算の ひっ算(2)	10	• (2位数)+(2位数)で答えが3位数の筆算 • 3口の計算 • (3位数)-(2位数)で答えが2位数の筆算 • 加法, 減法の演算決定問題, 作問
	10月 (18)	◎ なんばん目	1	•順序数と集合数の組み合わされた問題
		◆ みらいへの つばさ	—	三角, 四角づくり/めいろあそび
前期(2学期制)の時数		70時間 (予備時数8時間) [標準時数: 78時間]		

下巻

2 学期制	3 学期制	大単元	配当時数	指導内容 <用語・記号>
10月 (13)	10月 (18)	7.かけ算(1)	17	<ul style="list-style-type: none"> ・基準量のいくつ分という見方とかけ算の概念 ・かけ算の概念と式 ・「倍」の意味、1倍 ・5の段の九九の構成、唱え方 ・2の段の九九の構成、唱え方 ・3の段の九九の構成、唱え方 ・4の段の九九の構成、唱え方 ・「かけられる数」と「かける数」の意味 <p style="text-align: right;"><×, かけ算> <ばい> <九九></p>
11月 (18)	11月 (18)	* ふくしゅう	2	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の理解の確認と持続
		8.かけ算(2)	15	<ul style="list-style-type: none"> ・6の段の九九の構成、唱え方 ・7の段の九九の構成、唱え方 ・8, 9の段の九九の構成、唱え方 ・1の段の九九の構成、唱え方 ・加法・乗法の演算決定問題 ・乗法と加法・減法の複合問題
12月 (13)	12月 (13)	9.三角形と四角形	5	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形と四角形の概念 ・三角形、四角形の弁別、作成
		2学期(3学期制)の時数		56時間 (予備時数10時間) [標準時数: 66時間]
1月 (11)	1月 (11)	● 九九のきまり	4	<ul style="list-style-type: none"> ・九九表づくり、九九表の考察 ・乗法の交換法則 ・同じ答えになるかけ算
		* ふくしゅう	2	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の理解の確認と持続
		10. 100cmをこえる長さ	4	<ul style="list-style-type: none"> ・長さの普遍単位mと測定 ・mを用いた測定
2月 (13)	2月 (13)	◎ ちがいをみて	2	<ul style="list-style-type: none"> ・求大、求小の逆思考の問題
		11. 10000までの数	7	<ul style="list-style-type: none"> ・10000未満の数の表し方 ・100を単位とする数の相対的な見方 ・10000という数の概念 ・10000までの数の系列、大小
3月 (9)	3月 (9)	* もうすぐ3年生	6	<ul style="list-style-type: none"> ・第2学年の総復習
		◆ みらいへのつばさ	—	スーパー・マーケット／ぼうをつかって／九九さがし
		3学期(3学期制)の時数		25時間 (予備時数8時間) [標準時数: 33時間]
		後期(2学期制)の時数		64時間 (予備時数13時間) [標準時数: 77時間]

年間総時数

134時間 (予備時数21時間) [標準時数: 155時間]

注1: 月の欄の()の数字は、月当たりの指導時数ですが、標準時数が年間の週の数で割り切れないため、目安を示しています。

注2: 指導時数には復習の時間も含んでいます。復習を柔軟に扱うことで、予備時間はさらに増えます。

注3: <>内の太字はその单元で学習する新しい用語・記号です。

第2学年 単元別学習内容一覧

上巻

1 1日の せいかつ [ひょう・グラフと とけい]				
目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
・簡単な事項を整理して、表やグラフの形に表したり、よんだけりできる。 ・何時何分までの時刻をよむことができる。		A(1)オ B(2)	5時間 2学期制：4月中旬 3学期制：4月中旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	1～2	・遊び調べによる表やグラフへの動機づけ	・上手に顔の絵を分類して、わかりやすく貼ることができる。(関)(表)	1
①あそびしらべ	3	・表や●のグラフの理解とそのかき方 ひょう、グラフ	・分類・整理することのよさがわかり、表や●のグラフのよみ方、かき方を理解する。(表)(考)(知)	1
②1日の せいかつ	4～5	・何時何分までの時刻のよみ 時、分	・何時何分までの時刻をよむことができる。(表)(知)	2
たしかめどうじょう	6	・4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	7	ステップ「はるの 1日」 ・表とグラフのかき方についての補充 ・時計のよみ方についての補充	・表とグラフを正しくかくことができる。(表) ・時計を正しくよむことができる。(表)	—
	8	ジャンプ「とけいのはりをおこう！」 ・時計盤に正しくはりをおき、お話しをする。	・時計を使ってお話しづくりができる。(関)(表)	

2 計算の しかたを かんがえよう [たし算と ひき算]				
目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
・(2桁)±(1桁)、(2桁)±(何十)の基礎計算が暗算でできる。		A(2)イ	9時間 2学期制：4月中旬～5月上旬 3学期制：4月中旬～5月上旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	9	・(1桁)+(1桁)の計算による(2桁)+(1桁)の計算への動機づけ	・(2桁)+(1桁)や(2桁)+(何十)の基礎計算が暗算でできる。(考)(表)	4
①たし算	9～13	・(2桁)+(1桁)、(2桁)+(何十)の基礎暗算		
②ひき算	14～17	・(2桁)-(1桁)、(2桁)-(何十)の基礎暗算	・(2桁)-(1桁)や(2桁)-(何十)の基礎計算が暗算でできる。(考)(表)	4
たしかめどうじょう	18～19	・4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	20	ステップ「計算ハイキング」 ・(2桁)±(1桁)や(2桁)±(2桁)の計算	・(2桁)±(1桁)、(2桁)±(2桁)の計算ができる。(関)(表)	—
	21	ジャンプ「計算めいろ」 ・(2桁)±(1桁)の計算を使って解決する迷路	・(2桁)±(1桁)の計算を使って、正しい道をみつけることができる。(関)(表)	

3 長さを しらべよう [長さ]

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• 長さの普遍単位 cm, mm について理解し、ものさしを使って長さを測ったり、直線をかいたりできる。		B(1)	8時間 2学期制：5月上旬～下旬 3学期制：5月上旬～下旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	22～23	• 普遍単位の必要性と長さの学習への動機づけ	• 長さの普遍単位 cm, mm を理解し、ものさしを使って長さを測ったり、直線をかくことができる。(関)(表)(知)	7
	24～30	• 長さの普遍単位 cm, mm の理解 • ものさしを使って長さを測ったり、直線をかいたりすること • 簡単な長さの計算 cm, mm, たんい, 直線		
たしかめどうじょう	31	• 4 観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	32	ステップ「さかななりあそび」 • 魚の長さをはかり、長さを比べること	• 長さを測定し、長さの比較をすることができる。(関)(表)	—
	33	ジャンプ「たからさがし」 • 点と点をむすぶ直線をひき、最短経路をみつけること	• 点と点をむすぶ直線を引き、長さを測定して最短経路をみつけることができる。(関)(表)	

4 計算のあたらしいしかたをかんがえよう [たし算とひき算のひつ算(1)]

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• $(2 \text{ 術}) + (2 \text{ 術}) < 100$, $(2 \text{ 術}) - (2 \text{ 術})$ の筆算の仕方を理解し、計算することができる。 • 加法の交換法則の理解。		A(2) 内容の取扱い(2)	9時間 2学期制：5月下旬～6月上旬 3学期制：5月下旬～6月中旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	34～35	• 位ごとに計算することに気づくことによる筆算への動機づけ	• $(2 \text{ 術}) + (2 \text{ 術}) < 100$ 筆算の仕方を理解し、計算することができます。(表)(知)	4
①たし算	35～39	• $(2 \text{ 術}) + (2 \text{ 術}) < 100$ の筆算の仕方の理解 • 加法の交換法則と答えの確かめ ひつ算	• 加法の交換法則を理解し、それを用いて答えを確かめることができます。(考)(表)(知)	
②ひき算	40～43	• $(2 \text{ 術}) - (2 \text{ 術})$ の筆算の仕方の理解 • 加法と減法の相互関係と答えの確かめ	• $(2 \text{ 術}) - (2 \text{ 術})$ の筆算の仕方を理解し、計算することができます。(表)(知) • 減法の答えを加法を用いて確かめることができます。(考)(表)	4
たしかめどうじょう	44	• 4 観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	45	ステップ「ひつ算の ロープウェー」 • $(2 \text{ 術}) + (2 \text{ 術}) < 100$ と $(2 \text{ 術}) - (2 \text{ 術})$ の筆算の補充	• $(2 \text{ 術}) + (2 \text{ 術}) < 100$ と $(2 \text{ 術}) - (2 \text{ 術})$ の筆算をして、下欄から正解をみつけることができる。(関)(表)	—
	46	ジャンプ「数あて」 • $(2 \text{ 術}) + (2 \text{ 術}) < 100$ と $(2 \text{ 術}) - (2 \text{ 術})$ の筆算の虫食い算	• $(2 \text{ 術}) + (2 \text{ 術}) < 100$ と $(2 \text{ 術}) - (2 \text{ 術})$ の筆算の虫食い算を解いたり、問題をつくることができる。(関)(考)	

◎ ドルフィンのまほう学校 カくれた 数はいくつ

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
・加減の2要素1段階で逆思考の問題を、テープ図を利用して解決する。		A(2)ア 内容の取扱い(2) 第3-1(2)	4時間 2学期制：6月上旬～中旬 3学期制：6月中旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	47～50	・加減の2要素1段階で逆思考の問題 ・加法と減法の相互関係	・テープ図をよんだり、かいたりして、加減の演算を適切に判断し、解決することができる。(考)(表)	4

ふくしゅう

ページ	学習内容	指導時数・時期
51	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	2時間 2学期制：6月中旬 3学期制：6月中旬

5 大きい数をしらべよう [1000までの数]

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
・1000までの数のよみ方、かき方を理解する。 ・十を単位とする数の相対的な見方に基づく加減計算ができる。		A(1)ア, イ, ウ	10時間 2学期制：6月中旬～7月上旬 3学期制：6月中旬～7月上旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	52～54	・折り鶴の数を調べる活動を通じた100をこえる数への動機づけ	・100をこえる数について、10や100のまとまりをつくって数えることができる。(関)(考)	1
① 100をこえる数	55～61	・1000までの数のよみ方、かき方 ・1000までの数の系列、大小 百のくらい、1000、千	・1000までの数について、よんだりかいたりできる。(考)(表)(知)	7
②たし算とひき算	62	・十を単位とする数の相対的な見方による加減計算	・十を単位とする数の相対的な見方に基づいて加減計算ができる。(考)(表)	1
たしかめどうじょう	63	・4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	64	ステップ「おはじき入れ」 ・おはじき入れによる数の加法的構成の補充	・おはじき入れを通して、数の加法的な構成を理解する。(関)(考)	—
	65	ジャンプ「なん百、なん十の計算」 ・百や十を単位とする相対的な見方による計算	・百や十を単位とする数の相対的な見方による計算ができる。(考)(表)	

ふくしゅう

ページ	学習内容	指導時数・時期
66	・既習事項の確認と持続	2時間 2学期制：7月中旬 3学期制：7月中旬

● 形づくり

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期		
• 色板や棒を使ったり、点をつないだりして、いろいろな形をつくり、図形を構成する力と観察する力を養う。		C(1)ア	4 時間 2 学期制：7 月中旬 3 学期制：7 月中旬		
小単元	ページ	学習内容		評価の観点	時数
	67～70	• 色板を並べて与えられた形をつくる。 • 棒を並べたり、点をつないで、いろいろな形をつくること		• 色板や棒を使っていろいろな形を適切に構成することができる。(関)(考)(表)	4

◎ ドルフィンのまほう学校 ふえたり へつたり

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期		
• 加減の組み合わされた3要素2段階の問題を、加減のオペレーター(変量)に着目した考え方で解くことができる。		A(2)ウ 第3-1(2), (4)	3 時間 2 学期制：9月上旬 3 学期制：9月上旬		
小単元	ページ	学習内容		評価の観点	時数
	71～73	• 加減のオペレーターに着目して解く問題		• 加減のオペレーターに着目して問題を解くことができる。(考)(表)	3

● 計算の じゅんじょ

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期		
• 加法に関する結合法則と()の意味を理解し、()を含む式の計算ができる。		A(2)ウ 内容の取扱い(1)	1 時間 2 学期制：9月上旬 3 学期制：9月上旬		
小単元	ページ	学習内容		評価の観点	時数
	74～75	• 加法の結合法則、()の意味とその使い方		• 加法の結合法則と()の使い方を理解し、式の計算ができる。(考)(表)(知)	1

ふくしゅう

ページ	学習内容	指導時数・時期
76	• 既習事項の確認と持続 • 次単元のレディネスチェック	2 時間 2 学期制：9 月中旬 3 学期制：9 月中旬

6 もっとひつ算のしかたをかんがえよう [たし算とひき算のひつ算(2)]				
目標		指導要領の該当項目		指導時数・時期
• $(2 \text{桁}) + (2 \text{桁}) \geq 100$ の加法とその逆の減法について、筆算の仕方を理解し計算ができる。		A(2)イ		10時間 2学期制：9月中旬～下旬 3学期制：9月中旬～10月上旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	77	既習事項の確認と答えが100をこえる筆算への動機づけ	• $(2 \text{桁}) + (2 \text{桁}) \geq 100$ の筆算の仕方を理解し、計算することができる。(考)(表) • 3口の加法ができる。(表)	4
①たし算	77～81	• $(2 \text{桁}) + (2 \text{桁}) \geq 100$ の筆算の仕方とその計算 • 3口のたし算	• $(2 \text{桁}) + (2 \text{桁}) \geq 100$ の逆の減法の筆算の仕方を理解し、計算することができる。(考)(表)	4
②ひき算	82～85	$(2 \text{桁}) + (2 \text{桁}) \geq 100$ の逆の減法の筆算の仕方とその計算	• $(2 \text{桁}) + (2 \text{桁}) \geq 100$ の逆の減法の筆算の仕方を理解し、計算することができる。(考)(表)	4
③どんな計算になるのかな	86	加減の演算決定問題	• 加減の場面で適切に演算を選択し、問題を解決することができる。(表)(知)	1
たしかめどうじょう	87	4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	88	ステップ「ひつ算のしまめぐり」 $(2 \text{桁}) + (2 \text{桁}) \geq 100$ の加法とその逆の減法の筆算の補充	• $(2 \text{桁}) + (2 \text{桁}) \geq 100$ の加法とその逆の減法の筆算ができる。(関)(表)	—
	89	ジャンプ「ひつ算バトル」 • カードを使った、 $(2 \text{桁}) + (2 \text{桁}) \geq 100$ の加法とその逆の減法の筆算ゲーム	• カードを使った、 $(2 \text{桁}) + (2 \text{桁}) \geq 100$ の加法とその逆の減法の筆算のゲームができる。(関)(考)(表)	

◎ ドルフィンのまほう学校 なんばん目				
目標		指導要領の該当項目		指導時数・時期
• 順序数と集合数のちがいを理解し、それらの関係をつかって問題を解決できる。		A(2)ウ 第3-1(2), (4)		1時間 2学期制：9月下旬 3学期制：10月上旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	90	順序数と集合数の組み合わされた問題	• 順序数と集合数のちがいを理解し、適切に問題を解くことができる。(考)(表)(知)	1

みらいへのつばさ				
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点	時数
三角、四角づくり	92～93	• 三角形の色板を使った三角形、四角形づくり	• 三角形の色板を並べて三角形や四角形をつくりたり、特定の点数になるように色板を選ぶことができる。(関)(考)(表)	—
めいろあそび	94～95	• 迷路を通ったり、つくったりすること	• 線のつながり具合に着目して正しい道をつけたり、自分で迷路をつくることができる。(関)(考)(表)	

※各单元末および巻末にある「みらいへのつばさ」には、少人数学習など個に応じた柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。すべての児童が一律に学習する必要はありません。

下巻

7 あたらしい計算を かんがえよう [かけ算(1)]				
目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• 具体的な事項に即して、かけ算の意味を理解する。 • 5, 2, 3, 4 の段のかけ算を構成し、九九を唱えたり、それを適用したりできる。		A(3) 内容の取扱い(3)	17 時間 2 学期制：10 月中旬～ 11 月上旬 3 学期制：10 月上旬～ 11 月上旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	1～4	• 遊園地の場面でのかけ算の学習への動機づけ	• 均等と不均等の違いを見極め、「いくつ分」の意味を理解できる。(関)(考)	1
①かけ算の しき	5～7	• いくつ分とかけ算の意味、かけ算の式 • 倍の概念とかけ算 かけられる数、かける数、×、かけ算、ばい	• かけ算の意味とその式、及び倍の意味が理解できる。(考)(知)	3
②かけ算の 九九	8～19	• 5, 2, 3, 4 の段の九九の構成と理解 • かけられる数とかける数の意味 • かけ算の作問 九九	• 答えがいくつずつ増えていくかを考えながら、5, 2, 3, 4 の段の九九を構成し、唱えることができる。(考)(表)(知)	12
たしかめどうじょう	20	• 4 観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	21	ステップ「かけ算の かんらん車」 • かけ算九九の補充	• 九九を用いて空欄を正解でうめることができる。(関)(表)	—
	22	ジャンプ「九九の いろぬり」 • 九九を使った色ぬりによるパズル	• 九九を用いて条件に合うものに正しく色をぬることができ。(関)(表)	

ふくしゅう		
ページ	学習内容	指導時数・時期
23	既習事項の確認と持続	2 時間 2 学期制：11 月中旬 3 学期制：11 月中旬

8 もっと 九九を つくろう [かけ算(2)]

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• アレイ図等を使って、6,7,8,9,1の段のかけ算を構成し、九九を唱えたり、それを適用したりできる。		A(3)	15時間 2学期制：11月中旬～ 12月上旬 3学期制：11月中旬～ 12月上旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	24	• アレイ図を使ったかけ算の構成と動機づけ	• アレイ図の使い方を知り、いろんなかけ算の図をつくることができる。(考)(表)	1
①九九づくり	25～33	• 6,7,8,9,1の段の九九の構成と理解	• アレイ図等を使って、6,7,8,9,1の段の九九を構成し、唱えることができる。(考)(表)(知)	10
②どんな計算になるのかな	34～35	• かけ算、たし算の場面での演算決定問題	• かけ算やたし算の場面で、適切に演算を選択し、問題を解くことができる。(考)(表)	1
③かけ算を つかった もんだい	36	• かけ算とたし算・ひき算を組み合わせた問題	• かけ算とたし算・ひき算を組み合わせた問題を解くことができる。(考)(表)	1
④さがして みよ う	37	• 身のまわりから、かけ算で求められるものをみつけること	• 身のまわりからかけ算で求められるものをみつけることができる。(関)(表)	1
たしかめどうじょう	38	• 4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	39	ステップ「九九すごろく」 • 九九を使ったすごろくあそび	• 九九を使って答えを求めながら道を進むことができる。(関)(表)(知)	—
	40	ジャンプ「九九を こえて」 • いくつかのかけ算を組み合わせて、九九の範囲をこえるかけ算の答えを求めるこ	• いくつかのかけ算を組み合わせて、九九の範囲をこえるかけ算の答えを求めることができる。(関)(考)(表)	

9 形を しらべよう [三角形と 四角形]

目 標				指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• 三角形、四角形の概念を理解する。		C(1)イ		5 時間 2 学期制：12 月中旬 3 学期制：12 月中旬		
小単元	ページ	学習内容		評価の観点		時数
(課題設定)	41～43	• 動物囲みによる三角形、四角形の学習への動機づけ 三角形、四角形		• 三角形、四角形の意味が理解できる。 (関)(知)		1
	44～46	• 三角形と四角形の弁別 • 三角形、四角形の分割		• 三角形、四角形を認識できる。 (表)(知) • 三角形や四角形を 2 つに分けてできる形に関心をもつ。 (関)(考)(表)		3
たしかめどうじょう	47	• 4 観点に基づく評価とふりかえり				1
みらいへのつばさ	48	ステップ「形めいろ」 • 三角形と四角形の弁別の補充		• 三角形と四角形を弁別しながら正しく迷路を通ることができる。 (関)(表)(知)		—
	49	ジャンプ「おどる にんぎょう」 • 三角形や四角形の色板を使った人形づくり		• 三角形や四角形の特徴をつかみ、適切に人形をつくることができる。 (関)(考)(表)		

● 九九の きまり

目 標				指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• 九九表をつくり、乗法に関して成り立つ性質を理解する。		A(1)エ A(3)イ 内容の取扱い(4)		4 時間 2 学期制：1 月中旬 3 学期制：1 月中旬		
小単元	ページ	学習内容		評価の観点	時数	
	50～55	• 乗数が 1 増えたときの積の増え方 • 乗法の交換法則		• 九九表をつくり、乗数が 1 増えると積は被乗数だけ増えることや乗法の交換法則を理解できる。 (考)(知)		4

ふくしゅう

ページ	学習内容	指導時数・時期
56～57	• 既習事項の確認と持続 • 次単元のレディネスチェック	2 時間 2 学期制：1 月中旬 3 学期制：1 月中旬

10 長い長さをはかろう [100cmをこえる長さ]				
目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• 長さの普遍単位mについて理解し、長さを測ったり量感を高める。		B(1)	4時間 2学期制：1月下旬～2月上旬 3学期制：1月下旬～2月上旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	58	• 両手を広げた長さの測定による学習の動機づけ	• 100cmをこえる長さの測定をすることができる。 (関)(表)	1
	59～60	• 長さの普遍単位mの理解 • 1mの量感 $m, 1m=100\text{ cm}$	• 長さの普遍単位mを知り、cmとの関係を理解できる。 (表)(知)	2
たしかめどうじょう	61	• 4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	62	ステップ「長さづくり」 • 1mの量感、2、3mの量感	• 1mの量感を身につけ、それを基に長さの見当をつけることができる。 (関)(考)	—
	63	ジャンプ「5mのものさしづくり」 • テープを使った5mの巻尺づくりとそれを使った測定	• テープに10cmごとに目盛りをつけて5mの巻尺をつくり、それを用いていろいろなところの測定ができる。 (関)(表)	

◎ ドルフィンのまほう学校 ちがいをみて				
目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• 求大・求小の逆思考の問題を解くことができる。		A(2) 第3-1(2), (4)	2時間 2学期制：2月中旬 3学期制：2月中旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	64～65	• 2つの数量について、大きい方との差から小さい方を求める(求小)、小さい方との差から大きい方を求める(求大)逆思考の問題	• 数量の大小関係を把握し、適切に演算を決定して計算できる。 (考)(表)	2

11 もっと大きい 数を しらべよう [10000までの数]				
目標	指導要領の該当項目		指導時数・時期	
• 10000までの数について、よんだりかいたりできる。 • 百や千を単位とする数の相対的な見方に基づく加減計算ができる。	A(1)ア,イ,ウ		7時間 2学期制：2月中旬～3月上旬 3学期制：2月中旬～3月上旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	66～67	• 1000をこえる数の学習への動機づけ	• 1000をこえる数の加法的構成がわかる。(関)(知)	1
	68～72	• 10000までの数のよみ方、かき方 • 百や千を単位とした数の相対的な見方 千のくらい、10000、一万	• 10000までの数について、よみ方やかき方、系列・大小を理解できる。(考)(知) • 百や千を単位とする数の相対的な見方に基づく加減計算ができる。(考)(表)	5
たしかめどうじょう	73	• 4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	74	ステップ「点とりルーレット」 • 数の加法的構成についての補充	• 数の加法的構成に基づいて数を表し、大小が判断できる。(関)(考)(表)	—
	75	ジャンプ「なん千のたし算・ひき算」 • 1000を単位とした数の相対的な見方による加減計算	• 1000を単位とした相対的な見方による加減計算ができる。(関)(考)(表)	

もうすぐ 3年生（2年の復習）		
ページ	学習内容	指導時数・時期
76～80	• 数とたし算・ひき算 • かけ算 • 長さ • 形と時間 • かんがえかた	6時間 2学期制：3月中旬 3学期制：3月中旬

みらいへの つばさ				
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点	時数
スーパー・マーケット	82～83	• スーパーマーケットでの買い物の場面から算数との関わりを見出し、問題を解決すること	• 身近な事象と算数との関わりに気づき、自ら算数を活用して問題を解決しようとする。(関)(表)	—
ぼうを つかって	84～85	• 棒を使ったパズル	• 棒を動かして形を変えたり、条件に合うものを見出すことができる。(関)(考)(表)	
九九さがし	86	• かけ算の式のよみ	• ビー玉が並んだ図を見て、いろいろな九九を見出すことができる。(関)(考)(表)	

*各単元末および巻末にある「みらいへのつばさ」には、少人数学習など個に応じた柔軟な扱いができるように時間配分をしていません。すべての児童が一律に学習する必要はありません。

第3学年 単元一覧表

上巻

2学 期制	3学 期制	大単元	配当 時数	指導内容 <用語・記号>
4月 (11)	4月 (10)	1. 時こくと時間	5	<ul style="list-style-type: none"> ・時こくと時間の概念 ・1時間=60分, 1日=24時間 <午前, 午後, 正午> ・秒の概念, 1分=60秒 <秒>
		2. 九九の表とかけ算	8	<ul style="list-style-type: none"> ・乗数と積の関係 ・$a \times 10, 10 \times a, a \times 0, 0 \times a$ のかけ算 ・乗法の交換法則 ・(何十)×(1位数), (何百)×(1位数)の計算
5月 (17)	5月 (17)	3.わり算	10	<ul style="list-style-type: none"> ・除法の意味(等分除, 包含除)と答えの求め方 <\div, わられる数, わる数, わり算> ・0のわり算 ・倍を求めるわり算 ・乗法・除法の演算決定問題 ・除法と加法・減法の複合問題
		◎ かくれた数はいくつ(1)	2	• $\square - a - b = c, a + b + \square = c$ の \square を求める問題
6月 (17)	6月 (17)	* ふくしゅう	1	•既習内容の理解の確認と持続
		4. かさ	6	<ul style="list-style-type: none"> ・直接比較, 間接比較, 任意単位によるかさの測定 ・かさの普遍単位「リットル, デシリットル, ミリリットル」 <$\ell, d\ell, m\ell$> ・1ℓの量感
7月 (11)	7月 (10)	● 何百のたし算とひき算	1	•(何百)±(何百)の計算
		* ふくしゅう	1	•既習内容の理解の確認と持続, レディネスチェック
		5. たし算とひき算の筆算	10	<ul style="list-style-type: none"> ・3桁の加法の筆算(和が3, 4桁) ・3桁の減法の筆算(繰り下がり1, 2回) ・3桁の減法の筆算(2つ上の位から繰り下げる場合)
		◎ かくれた数はいくつ(2)	2	•乗法の逆思考, 除法の逆思考
		* ふくしゅう	1	•既習内容の理解の確認と持続, レディネスチェック
1学期(3学期制)の時数		47時間 (予備時数7時間) [標準時数: 54時間]		
8~9月 (19)	9月 (16)	6.長い長さ	4	<ul style="list-style-type: none"> ・1mをこえる長さの測定 ・巻尺の使い方 ・長さの普遍単位「キロメートル」, 1km=1000m <km, キロメートル>
		● たし算とひき算	4	•2桁の加法・減法の暗算
	10月 (18)	◎ 間の数	1	•間の数に着目して解く問題
		* ふくしゅう	1	•既習内容の理解の確認と持続, レディネスチェック
		7.あまりのあるわり算	8	<ul style="list-style-type: none"> ・余りのあるわり算の意味と式 <あまり, わり切れる, わり切れない> ・余りと除数の大小関係 ・被除数, 除数, 商, 余りの関係と答えの確かめ ・余りの処理の問題
		◆ みらいへのつばさ	—	九九の数字ゲーム／だいたいとぴったり／かさのいろいろなたんい
前期(2学期制)の時数		65時間 (予備時数10時間) [標準時数: 75時間]		

下巻

2 学期制	3 学期制	大单元	配当時数	指導内容 <用語・記号>
10月 (13)	10月 (18)	8. 長方形と正方形	7	<ul style="list-style-type: none"> 直角の概念 <直角> 長方形、正方形の概念 <長方形、辺、ちょう点、正方形> 直角三角形の概念 <直角三角形> 長方形、正方形、直角三角形の作図、敷き詰め
		◎ 何倍になるのかな	2	<ul style="list-style-type: none"> $a \times b \times c$ と $a \times (b \times c)$ の具体的な場面と計算の仕方
		● 計算のじゅんじょ	1	<ul style="list-style-type: none"> 結合法則、$a \times b \times c = a \times (b \times c)$ <等号>
		* ふくしゅう	1	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の理解の確認と持続、レディネスチェック
		9. 1けたをかけるかけ算の筆算	9	<ul style="list-style-type: none"> $(2, 3 \text{ 位数}) \times (1 \text{ 位数})$ の筆算 簡単な(2位数)×(1位数)の暗算
11月 (17)	11月 (17)	* ふくしゅう	1	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の理解の確認と持続、レディネスチェック
		10. 一万をこえる数	9	<ul style="list-style-type: none"> 一万をこえる数のしくみ、命数法・記数法 <一万の位> 千萬の位までの数のよみ方<十万の位, 百万の位, 千萬の位> 千萬の位までのしくみ、相対的な大きさ、数の大小 「10倍」「100倍」「10でわる」と位取り
12月 (13)	12月 (13)	◎ べつべつに、いっしょに	3	<ul style="list-style-type: none"> $a \times c \pm b \times c$ をいろいろに考えて解く問題 $(a+b) \times c, (a-b) \times c$ をまとめて考えて解く問題
		● 計算のきまり	1	<ul style="list-style-type: none"> 分配法則、$(a+b) \times c = a \times c + b \times c$
		11. 表とグラフ	7	<ul style="list-style-type: none"> 資料の分類・整理、「正」の字で表し、表に整理する 棒グラフのよみ方、かき方 <ぼうグラフ> 簡単な2次元の表
2学期(3学期制)の時数			59時間 (予備時数5時間) [標準時数: 64時間]	
1月 (11)	1月 (11)	12. はこの形	4	<ul style="list-style-type: none"> 箱の面の写し取り、箱の観察 <面> 厚紙、ひごを使った箱の形づくり
		* ふくしゅう	1	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容の理解の確認と持続、レディネスチェック
		13. 2けたをかけるかけ算の筆算	5	<ul style="list-style-type: none"> 何十をかける計算 $(2 \text{ 位数}) \times (2 \text{ 位数})$ の筆算
2月 (13)	2月 (13)	14. 重さ	7	<ul style="list-style-type: none"> 重さの概念、間接比較、任意単位による重さの測定 かさの普遍単位「グラム」、重さの測定 <g, グラム> かさの普遍単位「キログラム」 <kg, キログラム> 簡単な重さの加法、減法
		● そろばん	4	<ul style="list-style-type: none"> そろばんの仕組み、数の入れ方(おき方)とはらい方
3月 (8)	3月 (8)	* もうすぐ4年生	3	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年の総復習
		◆ みらいへのつばさ	—	<ul style="list-style-type: none"> 長方形づくり／ふれあい音楽会をひらこう／大小をあらわすし
		3学期(3学期制)の時数	24時間 (予備時数8時間) [標準時数: 32時間]	
後期(2学期制)の時数			65時間 (予備時数10時間) [標準時数: 75時間]	

年間総時数

130時間 (予備時数20時間) [標準時数: 150時間]

注1: 月の欄の()の数字は、月当たりの指導時数ですが、標準時数が年間の週の数で割り切れないため、目安を示しています。

注2: 指導時数には復習の時間も含んでいます。復習を柔軟に扱うことで、予備時間はさらに増えます。

注3: <>内の太字はその单元で学習する新しい用語・記号です。

第3学年 単元別学習内容一覧

上巻

1 どうぶつ園での1日 [時こくと時間]

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
・時間の意味と日、時、分、秒の関係を理解し、簡単な場合について必要な時刻や時間を求める。		B(3)	5時間 2学期制：4月中旬 3学期制：4月中旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	1～3	・時刻と時間の学習への動機づけ	・時間の概念、日、時、分、秒の関係を理解する。(知) ・簡単な場合について必要な時刻や時間が求められる。(表)	4
	3～7	・時間の概念と日、時、分、秒の関係の理解 ・必要な時刻や時間を求める 時こく、時間、午前、正午、午後、秒 $1\text{ 時間} = 60\text{ 分}, 1\text{ 日} = 24\text{ 時間}, 1\text{ 分} = 60\text{ 秒}$		
たしかめ道場	8～9	・4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	10	ステップ「時間のさん歩道」 ・時計のよみ方と時刻・時間の補充	・時計をよみ、時刻や時間をい うことができる。(関)(表)	—
	11	ジャンプ「1分間ってどのくらい？」 ・1分間の量感	・1分間にどれくらいのことが できるかを予想できる。 (関)(考)(知)	

2 九九の表をしらべよう [九九の表とかけ算]

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
・乗数が1ずつ増減するときの積の変化を調べる。 ・10や0のかけ算の意味を理解し、答えを求めることがで きる。 ・(何十、何百)×(1桁)の計算が暗算ができる。		A(3)イ、ウ 内容の取扱い(3), (4)	8時間 2学期制：4月中旬～5月 上旬 3学期制：4月中旬～5月 上旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	12	・九九の表からきまりをみつけることによ る学習の動機づけ	・九九の表からきまりをみつけ ることができる。(関)(考)	1
①九九の表をつか って	13～17	・乗数が1ずつ増減するときの積の変化 ・10のかけ算、0のかけ算 ・ $a \times \square = b$, $\square \times a = b$ の□にあてはまる 数をみつけること	・乗数の増減に伴う積の変化の ようすがわかる。(考)(知) ・10や0のかけ算ができる。 (表) ・九九表や九九を使って、□に あてはまる数をみつけること ができる。(考)(表)	5
②何十、何百のか け算	18	・十や百を単位とする数の相対的な見方に 基づく、(何十、何百)×(1桁)の計算	・十や百が何個と考えて、(何 十、何百)×(1桁)の計算を することができる。(考)(表)	1
たしかめ道場	19	・4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	20	ステップ「かけ算めいろ」 ・10や0を含むかけ算の補充	・10や0を含むかけ算がで きる。(関)(表)(知)	—
	21	ジャンプ「むかしの九九の表」 ・昔の日本の九九	・昔の日本の九九をみて、現在 との相違点がいえる。 (関)(表)(知)	

3 新しい計算を考えよう [わり算]				
目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
•わり算の意味と計算の仕方を理解する。 •わり算とたし算、ひき算を組み合わせた問題を解くことができる。		A(4)	10 時間 2 学期制：5 月上旬～下旬 3 学期制：5 月上旬～下旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	23～25	•あめを分ける場面によるわり算の学習の動機づけ	•操作を通してわり算の意味を理解し、九九を使ってわり算の答えを求めることができる。(関)(考)(表)	7
①分け方とわり算	25～33	•わり算(等分除、包含除)の意味 •0 のわり算 •倍を求めるわり算 わり算、÷		
②どんな計算になるのかな	34～35	•乗除の演算決定問題	•乗除の場面で適切な演算を選択し、答えを求めることができる。(表)(知)	1
③わり算をつかつたもんだい	36	•除法と加法、減法を組み合わせた 3 要素 2 段階の問題	•題意をつかみ、正しく答えを求めることができる。(考)(表)	1
たしかめ道場	37	•4 観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	38	ステップ「わり算カード」 •九九の表を使ってわり算カードを作ること	•九九の表を使って、わり算カードを作ることができる。(関)(考)(表)	—
	39	ジャンプ「答えが九九にないわり算」 •九九の範囲をこえるかけ算の答えを工夫して求めること	•九九の範囲をこえるかけ算の答えを工夫して求めることができる。(関)(考)(知)	

◎ ドルフィンのまほう学校 カくれた数はいくつ(1)				
目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
•順思考と逆思考を組み合わせた 3 要素 2 段階の問題を解くことができる。		A(2)ウ、(4)イ 内容の取扱い(2) 第 3-1(1), (2), (4)	2 時間 2 学期制：5 月下旬 3 学期制：5 月下旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	40～41	•順思考と逆思考を組み合わせた 3 要素 2 段階の問題 •加法と減法の相互関係	•3 要素 2 段階の問題を、線分図などを手がかりに解くことができる。(関)(考)(表)	2

ふくしう		
ページ	学習内容	指導時数・時期
42	•既習事項の確認と持続	1 時間 2 学期制：5 月下旬 3 学期制：6 月上旬

4 水のかさをしらべよう [かさ]				
目 標		指導要領の該当項目		指導時数・時期
• かさの普遍単位 ℓ , $d\ell$, $m\ell$ を知り、それらを使って測定ができる。		B(1)イ, ウ 内容の取扱い(5)		6時間 2学期制：6月上旬～中旬 3学期制：6月上旬～中旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	43～45	• 2つの水筒にはいる水の量の比較による普遍単位の必要性とかさしらべの動機づけ	• 大きさの異なる容器で測ったことの不自然さがわかり、かさの普遍単位の必要性に気づく。(関)	1
	46～49	• かさの普遍単位 ℓ , $d\ell$, $m\ell$ の理解 ℓ , $d\ell$, $m\ell$	• かさの普遍単位 ℓ , $d\ell$, $m\ell$ を知り、それらを使って測定することができます。 (考)(表)(知)	4
たしかめ道場	50	• 4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	51	ステップ「かさのれっ車」 • かさを正確によみとること	• ますに表されたかさとその表現とを適切に結びつけることができる。(関)(表)(知)	—
	52	ジャンプ「かさしらべ」 • かさの量感と実測	• いろいろなれもののかさを予想して、実際に測ることができます。(関)(考)(表)	

● 何百のたし算とひき算				
目 標		指導要領の該当項目		指導時数・時期
• 百を単位とする数の相対的な見方に基づいて、(何百)±(何百)の計算ができる。		A(1)ウ, (2)ア, イ		1時間 2学期制：6月中旬 3学期制：6月下旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	53	• 百を単位とする数の相対的な見方に基づく、(何百)±(何百)の計算	• 百がいくつと考えて、(何百)±(何百)の計算をすることができる。(考)(表)	1

ふくしゅう		
ページ	学習内容	指導時数・時期
54	• 既習事項の確認と持続 • 次単元のレディネスチェック	1時間 2学期制：6月下旬 3学期制：6月下旬

5 筆算のしかたを考えよう [たし算とひき算の筆算]

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• 術数の少ない場合を基にして、児童自らが3桁の加減の筆算の仕方を考えることができる。		A(2) 内容の取扱い(2)	10 時間 2 学期制：6 月下旬～7 月上旬 3 学期制：6 月下旬～7 月中旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	55	• 3 術の数の加減計算の学習への動機づけ	• 術数の少ない場合を基に、3 術の加法の筆算の仕方を考えることができる。(考)(表)	4
①たし算の筆算	55～59	• (3 術)+(3 術)の筆算の仕方	• 術数の少ない場合を基に、3 術の減法の筆算の仕方を考えることができる。(考)(表)	5
②ひき算の筆算	60～64	• (3 術)-(3 術)の筆算の仕方	• 4 観点に基づく評価とふりかえり	1
たしかめ道場	65		• 加法と減法の相互関係に目をつけて、かくれた部分の数字を考えることができる。(閲)(考)(表)	—
みらいへのつばさ	66	ステップ「数あて」 • 3 術の加減の筆算の虫食い算	• 術数の少ない場合を基に、4 術の加減の筆算の仕方を考えることができる。(考)(表)	—
	67	ジャンプ「4 けたの筆算」 • 4 術の加減の筆算		

◎ ドルフィンのまほう学校 カくれた数はいくつ(2)

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• 乗法や除法の逆思考の問題を解くことができる。		A(3)イ, (4) 第3-1(2), (4)	2 時間 2 学期制：7 月中旬 3 学期制：7 月中旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	68～69	• 乗法, 除法の逆思考の問題	• 要素の関係を適切にとらえて立式し, 問題を解くことができる。(考)(表)	2

ふくしゅう

ページ	学習内容	指導時数・時期
70	• 既習事項の確認と持続 • 次単元のレディネスチェック	1 時間 2 学期制：7 月中旬 3 学期制：7 月中旬

6 長い長さをしらべよう [長い長さ]				
目 標		指導要領の該当項目		指導時数・時期
・長さの単位 km について知り、簡単な場合の道のりなどの計算ができる。 ・巻き尺の使い方を知り、適切に測定ができる。		B(1)ア, (2)		4 時間 2 学期制：9月上旬 3 学期制：9月上旬～中旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	71	・長さの学習への動機づけ	・長さの単位 km を知り、簡単な長さの計算ができる。 (表)(知)	3
	71～73	・長さの単位 km の理解と簡単な道のりなどの計算 ・巻き尺の使い方 $km, 1 km=1000 m$, 道のり	・巻き尺の使い方を知り、測定ができる。(表)(知)	
たしかめ道場	74	・4 観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	75	ステップ「1分間歩こう」 ・1分間歩いた距離を予想し、巻尺を使って測ること ジャンプ「10 m あそび」 ・10 m のひもを使っていろいろな予想ができる。(関)(表)	・1分間歩いた距離を予想し、巻尺を使って測ることができ。(関)(表) ・10 m のひもを使っていろいろな予想ができる。(関)(表)	—

● たし算とひき算				
目 標		指導要領の該当項目		指導時数・時期
・2桁同士の加減計算が暗算ができる。		A(2) 内容の取扱い(1) 第3-1(1), (4)		4 時間 2 学期制：9月中旬 3 学期制：9月中旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	76～77	・2桁同士の加減の暗算	・2桁同士の加減計算が暗算できる。(関)(表)	4

◎ ドルフィンのまほう学校 間の数				
目 標		指導要領の該当項目		指導時数・時期
・順序数と集合数の混じった問題を解くことができる。		A(2)イ 第3-1(1), (2), (4)		1 時間 2 学期制：9月中旬 3 学期制：9月中旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	78	・順序数と集合数の混じった問題	・順序数と集合数の違いを理解し、問題を解くことができる。(考)(表)	1

ふくしゅう		
ページ	学習内容	指導時数・時期
79	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1 時間 2 学期制：9月中旬 3 学期制：9月中旬

7 もっとわり算の計算のしかたを考えよう [あまりのあるわり算]				
目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
•わり算の余りの意味を理解し、余りのあるわり算の計算ができる。 •場面に応じて、適切に余りの処理ができる。		A(4)	8時間 2学期制：9月中旬～下旬 3学期制：9月下旬～10月上旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	80～81	•余りのあるわり算の動機づけ	•余りの意味がわかり、余りのあるわり算の計算ができる。 (考)(表)(知)	5
①あまりのあるわり算のしかた	81～86	•余りの意味と余りのあるわり算の仕方 あまり、わり切れる、わり切れない		
②あまりを考えて	87	•余りを切り上げたり、切り捨てたりして条件に合う答えを求めるこ	•場面に応じて、余りを切り上げたり切り捨てたりして条件に合う答えを求めることができる。(考)(表)	2
たしかめ道場	88	•4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	89	ステップ「わり算ゲーム」 •余りの大きさに着目しながら進めるゲーム	•余りを考えながら計算し、「わり算ゲーム」に関心を持って取り組む。(関)(考)(表)	—
	90	ジャンプ「数の色ぬり」 •簡単な剩余類別	•わる数と余りの関係に気づく。(関)(考)(知)	

みらいへのつばさ				
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点	時数
九九の数字ゲーム	92～93	•九九にある数字を使ったbingoゲーム	•真ん中にはいる数字を工夫するなど、九九の特徴をつかみ、ゲームをすることができる。(関)(考)(表)	—
だいたいとぴったり	94～95	•買い物場面での大まかな見積もり •おつりの硬貨の枚数が少なくなるような硬貨の出し方	•大まかなたし算の見積もりができる。(関)(表) •おつりの硬貨の枚数が少くなるような硬貨の出し方を考えることができる。(関)(考)(知)	
かさのいろいろなたんい	96	•かさのいろいろな単位を知り、それらの関係を理解すること	•かさの普遍単位 cl について知り、 ℓ や ml との関係を理解することができる。(関)(考)(知)	

*各単元末および巻末にある「みらいへのつばさ」には、少人数学習など個に応じた柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。すべての児童が一律に学習する必要はありません。

8 形をしらべよう [長方形と正方形]

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
・直角を知り、長方形、正方形、直角三角形について理解する。		C(1)イ	7時間 2学期制：10月中旬～下旬 3学期制：10月上旬～中旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	1～3	• 直角の意味と長方形、正方形の学習の動機づけ 直角	• 直角について知り、それを使って三角形や四角形のかどの形を調べることに関心をもつ。(関)(知)	1
	4～8	• 長方形、正方形、直角三角形の理解と作図、しきつめ • 三角定規が直角三角形であること 長方形、辺、ちょう点、正方形、直角三角形	• 紙を折って長方形、正方形、直角三角形をつくり、それらの性質を理解できる。(考)(表)(知)	5
たしかめ道場	9	• 4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	10	ステップ「色ぬり」 • 正方形、長方形、直角三角形の弁別	• 長方形、正方形、直角三角形を弁別し、適切に塗り分けることができる。(関)(表)	—
	11	ジャンプ「正方形づくり」 • ピースを組み合わせて長方形をつくるパズル	• 図形を並べ替えて正方形を作ることができる。(関)(考)(表)	

◎ ドルフィンのまほう学校 何倍になるのかな

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• オペレーター(変量)に着目し、何倍になるかを考えて、問題を解くことができる。		A(3)イ、ウ 第3-1(1), (2), (4)	2時間 2学期制：10月下旬 3学期制：10月中旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	12～13	• 乗法のオペレーター(変量)に着目し、何倍になるかを考えて解く問題	• a 倍の b 倍が $(a \times b)$ 倍になることを使って問題を解くことができる。(考)(表)	2

● 計算のじゅんじょ

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• 乗法に関する結合法則を理解する。		A(3)イ、ウ	1時間 2学期制：10月下旬 3学期制：10月下旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	14～15	• 乗法に関する結合法則 等号	• オペレーターに着目して、乗法の結合法則 $a \times b \times c = a \times (b \times c)$ を理解できる。(表)(知)	1

ふくしゅう		
ページ	学習内容	指導時数・時期
16	既習事項の確認と持続 次単元のレディネスチェック	1時間 2学期制：10月下旬 3学期制：10月下旬

9かけ算の筆算のしかたを考えよう [1けたをかけるかけ算の筆算]				
目 標	指導要領の該当項目	指導時数・時期		
• (2, 3桁)×(1桁)の計算が筆算ができる。 • 簡単な(2桁)×(1桁)の計算が暗算ができる。	A(3) 内容の取扱い(1)	9時間 2学期制：10月下旬～ 11月上旬 3学期制：10月下旬～ 11月上旬		
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	17	• かけ算の筆算への動機づけ	• (2桁)×(1桁)の筆算の仕方を理解し、答えを求めることができる。(表)	5
①(2けた)×(1けた)の筆算	17～22	• (2桁)×(1桁)の筆算の仕方の理解		
②(3けた)×(1けた)の筆算	23～24	• (3桁)×(1桁)の筆算の仕方を自分で考えること	• (2桁)×(1桁)の場合を基にして、(3桁)×(1桁)の筆算の仕方を考えることができる。(考)(表)	2
③暗算	25	• 簡単な(2桁)×(1桁)の暗算	• 簡単な(2桁)×(1桁)の計算を暗算でできる。(表)	1
たしかめ道場	26	• 4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	27	ステップ「ルーレットゲーム」 • (2桁)×(1桁)のかけ算を使ったゲーム	• ルーレットを回し、どこに数字を入れるとよいかを考えながら、(2桁)×(1桁)のかけ算ができる。(関)(考)(表)	—
	28	ジャンプ「何千のかけ算」 • 簡単な(4桁)×(1桁)の計算	• 数のしくみを考えて、(4桁)×(1桁)の答えを求めることができる。(関)(考)(知)	

ふくしゅう		
ページ	学習内容	指導時数・時期
29	既習事項の確認と持続 次単元のレディネスチェック	1時間 2学期制：11月中旬 3学期制：11月中旬

10 大きい数をしらべよう [一万をこえる数]

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• 一万をこえる数のしくみ、よみ方、かき方を理解する。 • 10倍、100倍や10でわったときの位の繰り上がり、繰り下がりのしくみを理解する。		A(1)	9時間 2学期制：11月中旬～ 12月上旬 3学期制：11月中旬～ 12月上旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	30～31	• 一万をこえる数の学習への動機づけ	• 一万をこえる数の表し方を知り、よんだりかいたりできる。(関)(表)(知)	4
①万の位	31～35	• 一万をこえる数の表し方とかき方 一万の位、十万の位、百万の位、千万の位		
②10倍した数、 10でわった数	36～39	• 10倍(100倍)すると位が1つ(2つ)上がること • 10でわると位が1つ下がること	• 10倍(100倍)したり、10でわったりしたときに位が上がったり下がったりすることを理解する。(考)(知)	4
たしかめ道場	40	• 4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	41	ステップ「名前の数の大きさくらべ」 • 数のしくみに基づいて、名前を数に置き換えること	• 「名前の数の大きさくらべ」の仕方を理解し、関心をもって取り組む。(関)(考)(表)	—
	42	ジャンプ「大きな数のたし算・ひき算」 • 簡単な何万や何万何千の加減計算	• 千を単位とした数の相対的な見方にに基づく計算ができる。(関)(考)(表)	

◎ ドルフィンのまほう学校 べつべつに、いつしょに

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• 加減の順思考と乗法の順思考を組み合わせた4要素の問題をまとまりを考えて解くことができる。		A(3)ウ 内容の取扱い(4) 第3-1(2)	3時間 2学期制：12月上旬 3学期制：12月上旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	43～45	• まとまりを考えて解く問題	• まとまりを考えて問題を解くことができる。(考)(表)	3

● 計算のきまり

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• 分配法則について理解する。		A(3)ウ 内容の取扱い(4)	1時間 2学期制：12月中旬 3学期制：12月中旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	46	• 分配法則の理解	• 分配法則の意味を知り、式に表すことができる。(表)(知)	1

11 表やグラフに表そう [表とグラフ]

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
• 身のまわりにある事象について、目的に応じて観点をきめ、資料を分類・整理し、表にまとめることができる。 • 棒グラフの意味を理解し、これをよんだりかいたりできる。		D(1)	7時間 2学期制：12月中旬～下旬 3学期制：12月中旬～下旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点
(課題設定)	47～48	• スポーツの希望調査による分類・整理への動機づけ	• 資料を調べることに関心をもち、1次元の表にまとめることができる。 (関)(表)
①表づくり	49	• 資料の収集・整理と1次元の表にまとめること	
②ぼうグラフ	50～54	• 棒グラフの読み方、書き方 ぼうグラフ	• 1目盛りの大きさに注意して棒グラフをよんだり、かいたりできる。(表)
③くふうした表	55	• 同一の項目でかかれた複数の表をまとめて、簡単な2次元の表をつくること	• 同一の項目でかかれた複数の表をまとめて、簡単な2次元の表をつくることができる。 (関)(表)
たしかめ道場	56	• 4観点に基づく評価とふりかえり	
みらいへのつばさ	57	ステップ「グラフにかこう」 • 表を見て棒グラフに表すこと	• 表を見て、適切に棒グラフをかくことができる。 (関)(表)
		ジャンプ「グラフをつくろう」 • 自分で調べたことを棒グラフに表すこと	• 自分で調べたことを棒グラフに表すことができる。 (関)(表)

12 はこの形をしらべよう [はこの形]

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
• 箱を観察したり、つくることを通して、箱を構成する要素(面、辺、頂点)に着目し、立体図形の素地を理解する。		C(1)ア	4時間 2学期制：1月上旬 3学期制：1月上旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点
(課題設定)	58	• 箱の面の写し取りによる、箱の形の学習への動機づけ 面	• 箱の観察を通して、面の形や面・辺・頂点の数を調べることができる。(関)(表)
①はこの形	59	• 箱の形の観察を通して、面、辺、頂点について調べること	
②はこづくり	60～61	• 面を使った箱(直方体、立方体)の製作 • ひごを使った箱の作製	• 面やひごをいくつか使って、箱の形を作製することができる。(考)(表)
たしかめ道場	62	• 4観点に基づく評価とふりかえり	
みらいへのつばさ	63	ステップ「ちょ金ばこづくり」 • 面を組み合わせて箱の形を作ること	• 箱を適切に切り開いて、貯金箱を作ることができる。 (関)(表)
		ジャンプ「さいころづくり」 • さいころの形を使った大きなさいころ作り	• 面に着目してさいころを作り、8つ使って大きな目のさいころを作ることができる。 (関)(考)(表)

ふくしゅう

ページ	学習内容	指導時数・時期
64	既習事項の確認と持続 次单元のレディネスチェック	1時間 2学期制：1月中旬 3学期制：1月中旬

13 もっとかけ算の筆算のしかたを考えよう [2けたをかけるかけ算の筆算]

目標	指導要領の該当項目	指導時数・時期
• (2桁)×(2桁)の計算を筆算でできる。	A(3)	5時間 2学期制：1月中旬～下旬 3学期制：1月中旬～下旬
小単元	ページ	評価の観点
(課題設定)	65	• ×(1桁)を基にした、×(何十)の計算への動機づけ
①何十をかけるかけ算	65～66	• ×(何十)の計算の仕方
②2けたをかけるかけ算の筆算	67～69	• (2桁)×(2桁)の筆算の仕方の理解
たしかめ道場	70	• 4観点に基づく評価とふりかえり
みらいへのつばさ	71	ステップ「かけ算のアスレチック」 • (2桁)×(2桁)の計算の補充
	72	ジャンプ「(3けた)×(2けた)の筆算」 • (3桁)×(2桁)の筆算

14 重さをしらべよう [重さ]

目標	指導要領の該当項目	指導時数・時期
• 重さの概念と重さの普遍単位 g, kg を理解する。 • 適切に計器を選んで、重さを測ることができる。	B(1)イ, エ 内容の取扱い(6)	7時間 2学期制：2月上旬～下旬 3学期制：2月上旬～下旬
小単元	ページ	評価の観点
(課題設定)	73～75	• 重さの概念と直接比較、任意単位による比較を通じて、重さしらべへの動機づけ
	76～80	• 重さの普遍単位 g, kg の理解と 1kg の量感 • 計器の選択と測定 • 簡単な重さの計算 $g, kg, 1kg = 1000 g$
たしかめ道場	81	• 4観点に基づく評価とふりかえり
みらいへのつばさ	82	ステップ「重さくらべ」 • 上皿ばかりの目盛りの読み方
	83	ジャンプ「重さしらべ」 • 重さの保存性

● そろばん

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
• 算盤の構造、部分の名称などを知り、使用上の留意点に気をつけて、算盤を正しく使用できる。 • 算盤による加減計算の仕方を理解し、珠算の基本的な技能を身につける。		A(5)	4時間 2学期制：3月上旬 3学期制：3月上旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点
	84～87	• 算盤の構造、各名称について知ること • 基本的な加減計算の仕方を理解し、正しく計算すること わく,けた,はり,1だま,5だま,定位点	• 算盤の構造や名称を知り、基本的な加減計算ができる。 (関)(表)(知)

もうすぐ 4年生（3年の復習）

ページ	学習内容	指導時数・時期
88～90	• 数と計算 • りょうとぼうグラフ • 図形、考え方	3時間 2学期制：3月中旬 3学期制：3月中旬

みらいへのつばさ

小見出し	ページ	学習内容	評価の観点	時数
長方形づくり	92～93	• 5種類のピースを使って長方形を作るパズル（テトロミノ）	• 5種類のピースを上手に組み合わせて、長方形を作ることができる。(関)(考)	—
ふれあい音楽会をひらこう	94～95	• 音楽会の準備などを通して、自分で計画を立て、問題を解決すること	• 身近な事象と算数の関わりに気づき、自ら算数を活用して問題を解決しようとする。(関)(表)	
大小を表すしるし	96	• 大小を表す記号について理解すること	• 大小を表す記号を知り、不等号を使って、表すことができる。(関)(知)	

※各単元末および巻末にある「みらいへのつばさ」には、少人数学習など個に応じた柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。すべての児童が一律に学習する必要はありません。

第4学年 単元一覧表

上巻

2学 期制	3学 期制	大単元	配当 時数	指導内容 <用語・記号>
4月 (11)	4月 (10)	1. 円と球	7	<ul style="list-style-type: none"> ・円の定義、円の性質、円の作図 <円, 中心, 半径> ・直径と中心の関係、コンパスの使い方 <直径> ・球の概念と性質 <球>
		● 答えが何十・何百になるわり算	1	・除法の筆算への準備の暗算 ($60 \div 3$, $120 \div 3$, $600 \div 3$)
	5月 (17)	2. 1けたでわるわり算の筆算	10	<ul style="list-style-type: none"> ・(2桁) ÷ (1桁)で商が2桁になる筆算、答えの確かめ ・(3桁) ÷ (1桁)の筆算 ・簡単な除法の暗算
5月 (17)	6月 (17)	* ふく習	2	・既習内容の理解の確認と持続、レディネスチェック
		3. 一億をこえる数	7	<ul style="list-style-type: none"> ・一億をこえる大きな数の命数法、記数法 <一億> ・一兆をこえる数の命数法、記数法 <一兆> ・十進位取り記数法とそのしくみ ・「$100 \times 100 = \text{万}$」「$\text{万} \times \text{万} = \text{億}$」を使った計算
		4. 折れ線グラフ	7	<ul style="list-style-type: none"> ・折れ線グラフのよみ方 <折れ線グラフ> ・変わり方の大小とグラフの傾き、2つの折れ線グラフ ・折れ線グラフのかき方、波線の使い方
6月 (17)	7月 (10)	5. 角とその大きさ	10	<ul style="list-style-type: none"> ・図形としての角の概念と角の大きさ <角> ・角度の概念と測り方、分度器の使い方, <$^\circ$, 度> ・半回転、一回転の角、180°をこえる角度の測定 ・角の作図 ・三角定規の角と簡単な角度の計算
		* ふく習	2	・既習内容の理解の確認と持続
	7月 (11)	1学期(3学期制)の時数		46時間 (予備時数8時間) [標準時数: 54時間]
8～9月 (19)	9月 (16)	6. 小数	8	<ul style="list-style-type: none"> ・小数の概念と表し方 <0.1, 小数, 小数点, 小数第1位, 整数> ・小数の系列、大小比較、相対的な見方 <数直線> ・小数の加減計算(小数第1位まで)
		◎ 何倍になるのかな	2	・ $a \times b \times c$ の a をまとめて考えて求める問題
		* ふく習	2	・既習内容の理解の確認と持続
8～9月 (19)	10月 (18)	7. 面積	9	<ul style="list-style-type: none"> ・面積の概念と普遍単位「平方センチメートル」の理解 <面積, cm^2, 平方センチメートル> ・長方形、正方形の面積の求め方と公式 ・面積の普遍単位「平方メートル、平方キロメートル」の理解 <m^2, km^2>
		* ふく習	2	・既習内容の理解の確認と持続
	10月 (18)	◆ みらいへのつばさ	—	電卓を使って計算できるかな／ふしぎな輪
前期(2学期制)の時数				69時間 (予備時数6時間) [標準時数: 75時間]

下巻

2 学期制	3 学期制	大単元	配当時数	指導内容 <用語・記号>
10月 (13)	10月 (18)	8. 三角形	7	<ul style="list-style-type: none"> ストロー やひごを使った三角形作り 三角形の分類と二等辺三角形、正三角形の定義 <二等辺三角形、正三角形> 二等辺三角形・正三角形の角の大きさ 二等辺三角形・正三角形の作図
		● 式と計算のじゅんじよ	3	<ul style="list-style-type: none"> ことばの式と()を含む式の導入 ()を含む式と四則混合計算の計算の順序 式のよみ
		* ふく習	2	既習内容の理解の確認と持続
11月 (17)	11月 (17)	9. およその数	6	<ul style="list-style-type: none"> 概数の概念 <がい数> 四捨五入の意味 <切り上げ、切り捨て、四捨五入> ある位までの概数、上から○桁の概数、概数の表す範囲 答えを概数で処理すること <和、差、積>
		◎ もとの数はいくつ	2	順にもどして解く 3 要素 2 段階の問題
		● 何十でわるわり算	2	除法の筆算への準備の暗算 (80 ÷ 20, 80 ÷ 30)
12月 (13)	12月 (13)	10. 2けたでわるわり算の筆算	10	<ul style="list-style-type: none"> (2桁) ÷ (2桁) で商が1桁になる筆算 (3桁) ÷ (2桁) の筆算、仮商の修正 除法の性質と計算の工夫 電卓を使った除法
		* ふく習	2	既習内容の理解の確認と持続
		2 学期(3学期制)の時数		57 時間 (予備時数 7 時間) [標準時数: 64 時間]
1月 (11)	1月 (11)	11. 調べ方と整理のしかた	4	<ul style="list-style-type: none"> 資料を 2 つの観点で分類・整理し、2 次元の表にまとめること 表を使って問題を解決すること
		* ふく習	2	既習内容の理解の確認と持続
		● 変わり方	3	伴って変わる 2 量の関係を表や折れ線グラフにかけて調べること
2月 (13)	2月 (13)	12. 分数	10	<ul style="list-style-type: none"> はしたの大きさの表し方、分数の概念<分数、分子、分母> 数としての分数の意味、単位分数のいくつ分という見方 分数の系列と大小、数直線上の分数 分数の分類 <真分数、仮分数、帯分数>
3月 (8)	3月 (8)	* もうすぐ 5 年生	6	第 4 学年の総復習
		◆ みらいへのつばさ	—	ごみゼロ大作戦／マンホールのふたはなぜまるい？
		3 学期(3学期制)の時数		25 時間 (予備時数 7 時間) [標準時数: 32 時間]
		後期(2学期制)の時数		59 時間 (予備時数 16 時間) [標準時数: 75 時間]

年間総時数	128 時間 (予備時数 22 時間) [標準時数: 150 時間]
-------	------------------------------------

注 1 : 月の欄の()の数字は、月当たりの指導時数ですが、標準時数が年間の週の数で割り切れないため、目安を示しています。

注 2 : 指導時数には復習の時間も含んでいます。復習を柔軟に扱うことで、予備時間はさらに増えます。

注 3 : < >内の太字はその单元で学習する新しい用語・記号です。

第4学年 単元別学習内容一覧

上巻

1 まるい形を調べよう [円と球]				
目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
・円や球の概念について、基本的な事項を理解する。 ・コンパスを使って円をかいたり、長さを写し取ったりすることができる。		C(1)ウ	7時間 2学期制：4月中旬 3学期制：4月中旬～下旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	1～2	•こまのまわるようすの観察による円の学習への動機づけ	•円とその中心、半径、直径などについて理解し、コンパスを使って作図をすることができる。(関)(表)(知) •球とその中心、半径、直径について理解する。(表)(知)	6
	3～7	•円の概念と性質 •コンパスを使った円の作図と模様作り 円、中心、半径、直径 •球の概念と性質 球		
たしかめ道場	8～9	•4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	10	ステップ「サッカーゲーム」 •コンパスで5cmの長さを写し取りながら進めるゲーム	•コンパスで長さを写し取りながら、ゲームをすることができる。(関)(考)(表)	—
	11	ジャンプ「たからさがし」 •円周上の点が中心から一定の距離にあることをを使った宝探し	•円の性質を使って、宝のありかをみつけることができる。(関)(考)(表)	

● 答えが何十・何百になるわり算

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
•(何十、何百)÷(1桁)、(何百何十)÷(1桁)の計算ができる。		A(3)ア、イ	1時間 2学期制：4月下旬 3学期制：4月下旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点
	12～13	•(何十、何百)÷(1桁)、(何百何十)÷(1桁)の計算	•(何十、何百)÷(1桁)、(何百何十)÷(1桁)の計算ができる。(考)(表)

2 わり算の筆算のしかたを考えよう [1けたでわるわり算の筆算]				
目 標	指導要領の該当項目		指導時数・時期	
• (2, 3位数) ÷ (1位数) のわり算の筆算の仕方を理解する。 • 簡単な(2位数) ÷ (1位数) の計算が暗算ができる。	A(3) 内容の取扱い(2)		10時間 2学期制：4月下旬～5月中旬 3学期制：5月上旬～下旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	14～15	• わり算の筆算への動機づけ	• (2桁) ÷ (1桁) の筆算の仕方を理解し、計算ができる。 (表)(知) • 被除数、除数、商、余りの関係を理解し、答えを確かめることができる。(考)(表)	5
①(2けた) ÷ (1けた) の筆算	16～19	• (2桁) ÷ (1桁) の筆算 • (わる数) × (商) + (あまり) = (わられる数) の関係と答えの確かめ		
②(3けた) ÷ (1けた) の筆算	20～21	• (3桁) ÷ (1桁) の筆算	• (2桁) ÷ (1桁) の場合を基にして、(3桁) ÷ (1桁) の筆算の仕方を考えることができる。(考)(表)	2
③暗算	22～23	• 簡単な(2桁) ÷ (1桁) の暗算	• 簡単な(2桁) ÷ (1桁) の計算が暗算ができる。(表)	2
たしかめ道場	24	• 4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	25	ステップ「計算アスレチック」 • (2, 3桁) ÷ (1桁) の計算の補充	• 目標を応じてわり算の筆算の練習をすることができる。(関)(表)	—
	26	ジャンプ「大きな数のわり算」 • 4桁以上を1桁でわる筆算の仕方を考えること	• 術数の少ない場合を基にして、(4桁以上) ÷ (1桁) のわり算の仕方を考えることができる。(関)(考)(表)	

ふく習		
ページ	学習内容	指導時数・時期
27	• 既習事項の確認と持続 • 次単元のレディネスチェック	2時間 2学期制：5月中旬 3学期制：5月下旬

3 大きい数を調べよう [一億をこえる数]

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
・億や兆をこえる数の表し方やしくみに関心をもち、数のよみ方やかき方を理解する。 ・概数の意味を理解し、四捨五入によって概数を求めることができる。		A(1) 内容の取扱い(1)	7時間 2学期制：5月下旬～6月上旬 3学期制：5月下旬～6月中旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	28～29	・一億をこえる数のしくみへの動機づけ	・大きな数の表し方やしくみを知り、そのよみ方、かき方が理解できる。(表)(知)	3
①億と兆	29～32	・一億をこえる数のしくみとよみ方・かき方 一億、一兆	・一億をこえる数について、十進位取り記数法に基づくしくみを理解できる。(関)(表)(知)	3
②大きな数のしくみ	33～35	・十進位取り記数法に基づく大きな数のしくみ ・十進位取り記数法に基づく相対的な見方に基づく計算	・十進位取り記数法に基づくしくみを理解できる。(関)(表)(知)	3
たしかめ道場	36	・4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	37	ステップ「太陽からのきより」 ・千万をこえる数のよみ方	・千万をこえる数を正確によむことができる。(関)(表)(知)	—
		ジャンプ「一万円さつをつむと」 ・数の大きさを長さに置き換えて考える相対的な見方	・1億の大きさを長さにおきかえて、相対的な量感がとらえられる。(関)(考)(知)	

4 変わり方をグラフに表そう [折れ線グラフ]

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
・折れ線グラフのよみ方やかき方を理解する。		D(1)	7時間 2学期制：6月上旬～中旬 3学期制：6月中旬～下旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	38～39	・1日の気温調査による折れ線グラフへの動機づけ	・折れ線グラフについて知り、グラフの傾きなどから変化のようすをとらえることができる。(関)(表)(知)	4
①変わり方を表すグラフ	39～43	・折れ線グラフのよみ方と変化のようす 折れ線グラフ	・表をよみとり、折れ線グラフをかくことができる。また、途中を省略する仕方でもかくことができる。(表)(知)	2
②折れ線グラフのかき方	44～47	・折れ線グラフのかき方とくふう	・表を見て折れ線グラフに表したり、折れ線グラフをよみとることができる。(関)(表)(知)	1
たしかめ道場	48	・4観点に基づく評価とふりかえり		—
みらいへのつばさ	49	ステップ「ひまわりの高さ調べ」 ・表を見て折れ線グラフに表したり、折れ線グラフをよみとること	・表を見て折れ線グラフに表したり、折れ線グラフをよみとることができます。(関)(表)(知)	—
	50	ジャンプ「ぼうグラフと折れ線グラフ」 ・棒グラフと折れ線グラフがいっしょに表されたグラフのよみ	・棒グラフと折れ線グラフの複合グラフを的確によみとることができます。(関)(考)(表)	

5 かどの形を調べよう [角とその大きさ]				
目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
<ul style="list-style-type: none"> 角の意味を理解し、角の大きさを回転の大きさとしてとらえることができる。 角の大きさを測定したり、目的の大きさの角を作図することができる。 		C(1)イ B(2)	10 時間 2 学期制：6 月中旬～7 月上旬 3 学期制：6 月下旬～7 月中旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	51～53	• かどの形を調べる活動と角の概念 角	• かどの形を調べる活動を通して、角とその大きさの学習に関心をもつ。(関)	1
①いろいろな大きさの角	54～55	• 角の大きさを回転の大きさととらえること	• 角の大きさを回転の大きさととらえることができる。(考)(知)	1
②角のはかり方とかき方	56～61	• 分度器の使い方と角度の測定 • 角のかき方 1°, 度	• 分度器を使って、角度を測ることができる。(表)(知) • 目的の大きさの角を作図することができる。(考)(表)	5
③三角じょうぎの角	62～63	• 三角定規の角の大きさについて理解すること	• 三角定規の角の大きさを知り、それらを組み合わせてできる大きさを考えることができる。(関)(考)(知)	2
たしかめ道場	64	• 4 観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	65	ステップ「同じピエロをみつけよう」 • 角度に着目して同じピエロをみつけること	• 角度に着目して、同じピエロをみつけることができる。(関)(考)(表)	—
	66	ジャンプ「はりのまわる角度」 • 360° をこえる角の大きさの理解	• 角の大きさを回転の大きさとしてとらえ、 360° をこえる角度について理解する。(関)(考)(知)	

ふく習		
ページ	学習内容	指導時数・時期
67	• 既習事項の確認と持続	2 時間 2 学期制：7 月上旬 3 学期制：7 月中旬

6 はしたの大きさの表し方を考えよう [小数]				
目 標		指導要領の該当項目		指導時数・時期
<ul style="list-style-type: none"> 端数部分を等分してできる部分の大きさなどの表し方として小数があることを知り、その意味や表し方を理解する。 1/10 の位までの小数の加減計算ができる。 		A(4)		8 時間 2 学期制：7 月上旬～中旬 3 学期制：9 月上旬～中旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	68～69	・液量の表し方による小数への動機づけ	・小数の意味を理解し、いろいろな量を 1/10 の位までの小数で表すことができる。 (関)(考)(知)	2
①はしたの大きさの表し方	69～71	・はしたの表し方と小数の意味、およびそのしくみ 0.1, 小数, 小数点, 小数第 1 位, 整数		
②小数の大きさ	72	・小数の系列, 大小, 0.1 を単位とする相対的な見方 数直線	・小数の大小判断および 0.1 を単位とした相対的な見方ができる。(知)(考)(表)	1
③小数のたし算・ひき算	73～76	・1/10 の位までの小数の加減計算	・1/10 の位までの小数の加減計算ができる。(考)(表)	4
たしかめ道場	77	・4 観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	78	ステップ「小数ランド」 ・小数の大きさを色で表すこと ・小数の魔方陣	・小数をよんだり、表したりできる。(表)(知) ・小数の魔方陣を作ることができる。(関)(考)	—
	79	ジャンプ「2 つのコップを使って」 ・目的の量の水の入れ方を考える問題	・目的の量の水の入れ方を、考えることができる。 (関)(考)(表)	

★ ドルフィンのまほう学校 何倍になるのかな				
目 標		指導要領の該当項目		指導時数・時期
<ul style="list-style-type: none"> 3 要素 2 段階の逆思考の問題を、オペレーター(変量)に着目し、何倍になるかを考えて解くことができる。 		A(3)ア, イ 第 3-1(2), (4)		2 時間 2 学期制：9 月上旬 3 学期制：9 月中旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	80～81	・3 要素 2 段階逆思考で、乗法のオペレーターに着目し、何倍になるかを考えて解く問題	・数量の関係を適切にとらえ、何倍になるかを考えて解くことができる。(考)(表)	2

ふく習		
ページ	学習内容	指導時数・時期
82	・既習事項の確認と持続	2 時間 2 学期制：9 月上旬 3 学期制：9 月中旬

ア 広さを調べよう [面積]

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
・面積の概念を理解し、面積の単位 cm^2 , m^2 , km^2 を知る。 ・長方形、正方形の面積の公式を知り、それらを求めることができる。		B(1) 内容の取扱い(4)	9時間 2学期制：9月中旬～下旬 3学期制：9月下旬～10月上旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点
(課題設定)	83～85	・広さ比べによる面積への動機づけ	・広さの表し方について関心を持つ。(関)
①面積	86～89	・面積の概念と普遍単位による面積の測定 ・長方形、正方形の面積と公式 面積, 1 cm^2	・面積の意味を知り、普遍単位を用いて長方形や正方形の面積を求めることができる。(考)(表)(知)
②大きな面積	90～93	・ 1 m^2 の理解とその量感 1 m^2 , 1 km^2 【コラム】 <i>a, ha</i>	・ 1 m^2 や 1 km^2 のような大きな面積について理解する。(表)(知)
③面積のもとめ方のくふう	94	・L字型の図形の面積を工夫して求めること	・L字型の図形の面積を分割などによって求めることができる。(考)(表)
たしかめ道場	95	・4観点に基づく評価とふりかえり	
みらいへのつばさ	96	ステップ「面積めいろ」 ・ます目の数や辺の長さに着目して面積の広い方を判断すること	・ます目の数や辺の長さに着目して、面積の大小を判断することができる。(関)(考)(表)
	97	ジャンプ「面積づくり」 ・いろいろな形の面積	・正方形の半分と考えて、面積が 2 cm^2 になる图形をいろいろ作ることができる。(関)(考)(表)

ふく習

ページ	学習内容	指導時数・時期
98	既習事項の確認と持続	2時間 2学期制：9月下旬 3学期制：10月上旬

みらいへのつばさ

小見出し	ページ	学習内容	評価の観点	時数
電卓を使って計算できるかな	100～101	・電卓を使った桁数の多い計算	・筆算のしくみを理解し、それに基づいて計算の仕方をみつけることができる。(関)(考)	—
ふしぎな輪	102～103	・テープで作った輪に切れ目を入れたときにできる形を考えること	・テープを切るとどんな形になるかを予想することができる。(関)(考)	

*各単元末および巻末にある「みらいへのつばさ」には、少人数学習など個に応じた柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。すべての児童が一律に学習する必要はありません。

下巻

8 三角形を調べよう [三角形]				
目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• 二等辺三角形、正三角形について理解できる。 • 二等辺三角形や正三角形の角の大きさについて理解する。 • 二等辺三角形、正三角形をかくことができる。	C(1)ア	7時間 2学期制：10月中旬～下旬 3学期制：10月中旬～下旬		
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	1～3	• ストローを使った三角形作りを通した学習への動機づけ	• 進んでストローを使った三角形作りに取り組む。(関)(表) • 二等辺三角形、正三角形について理解し、弁別することができる。(考)(表)(知)	2
①二等辺三角形と正三角形	3～6	• 三角形の分類と二等辺三角形、正三角形の理解 • 辺の長さに着目した二等辺三角形、正三角形のかき方 二等辺三角形、正三角形		
②二等辺三角形と正三角形の角	7～10	• 二等辺三角形と正三角形の角の大きさ • 角の大きさに着目した二等辺三角形、正三角形のかき方	• 二等辺三角形や正三角形の角の大きさについて理解できる。(考)(知)	4
たしかめ道場	11	• 4 観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	12	ステップ「三角形ランド」 • 正三角形と二等辺三角形の弁別 • 三角形の作図	• 正三角形と二等辺三角形を弁別し、適切に塗り分けができる。(関)(表)(知)	—
	13	ジャンプ「正三角形さがし」 • 図形の中にある正三角形の個数を効率よく数えること	• 図形の中にある正三角形の個数を効率よく数えることができる。(関)(考)(表)	

● 式と計算のじゅんじょ

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• ()を含む式や四則混合式について計算の順序を知り、計算のきまりについて理解を深める。 • 式を見て具体的な場面を想起したり、問題を作る。		D(2)	3時間 2学期制：10月下旬～11月上旬 3学期制：10月下旬～11月上旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	14～17	• ()や四則演算に関する計算のきまり • 式から具体的な場面をよむこと	• ()を含む式や四則演算が混和した式について、正しい順序で計算することができる。 (考)(表)(知) • 式を見て具体的な場面を想起したり、問題を作ることができます。(関)(表)	3

ふく習

ページ	学習内容	指導時数・時期
18	• 既習事項の確認と持続	2時間 2学期制：11月上旬 3学期制：11月上旬

9 およその数を調べよう [およその数]

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• 概数の意味を理解し、四捨五入によって概数を求めることができる。		A(2)	6時間 2学期制：11月中旬～下旬 3学期制：11月中旬～下旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	19～21	• 概数の学習への動機づけ	• 概数に関心をもち、概数に表すことや四捨五入の意味を理解でき、概数で処理することができます。(関)(表)(知)	5
	21～26	• 概数の意味と四捨五入 • 概数を表す数の範囲 がい数、四捨五入		
たしかめ道場	27	• 4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	28	ステップ「がい数ランド」 • 概数にしたときの大きさの観点で数を類別すること • 任意に5桁の数を作り、上から2桁の概数にすること	• 概数にしたときの大きさの観点で数を類別することができます。(関)(表) • 5桁の数を作り、目的に応じて概数にすることができます。(関)(考)	—
	29	ジャンプ「がい数新聞づくり」 • 自分で集めた情報を概数を使って新聞にまとめる	• 自分で集めた情報を概数を使って新聞にまとめることができる。(関)(考)(知)	

★ ドルフィンのまほう学校 もとの数はいくつ			
目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
小単元	ページ	学習内容	評価の観点
• 3要素2段階の問題を、順にもどして考えて解くことができる。		D(2) 第3-1(2), (4)	2時間 2学期制：11月下旬 3学期制：11月下旬
30～31	• 順にもどして解く3要素2段階の問題	• 要素間の関係を的確にとらえ、順にもどして考えることができる。(考)(表)	2

● 何十でわるわり算			
目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
小単元	ページ	学習内容	評価の観点
• (何十) ÷ (何十), (何百何十) ÷ (何十) で商が1桁のわり算ができる。		A(3)ア, イ	2時間 2学期制：11月下旬 3学期制：11月下旬
32～34	• (何十) ÷ (何十), (何百何十) ÷ (何十) で商が1桁のわり算	• (何十) ÷ (何十), (何百何十) ÷ (何十) で商が1桁のわり算ができる。(考)(表)	2

10 さらにわり算の筆算のしかたを考えよう [2けたでわるわり算の筆算]				
目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
• 2位数でわる筆算の仕方を理解し、答えを求めることができる。 •わり算について成り立つ性質を知り、活用することができる。		A(3)ア, イ, エ 内容の取扱い(3)	10時間 2学期制：12月上旬～中旬 3学期制：12月上旬～中旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	35	• (2, 3桁) ÷ (2桁) の計算への動機づけ	• (2桁) ÷ (2桁) と (3桁) ÷ (2桁) で商が1桁の筆算の仕方を理解し、仮商の処理が確実にできる。(考)(表)(知)	4
①わり算の筆算	35～39	• (2桁) ÷ (2桁) の筆算の仕方 • (3桁) ÷ (2桁) で商が1桁の筆算の仕方		
②商が2けたになる筆算	40	• (3桁) ÷ (2桁) で商が2桁の筆算の仕方	• (3桁) ÷ (2桁) の筆算が確実にできる。(表)(知)	1
③わり算のせいしつ	41～43	• 除数と被除数の両方に同じ数をかけても、同じ数でわっても商は変わらない性質	• わり算の性質を理解し、これを使って大きな数のわり算の答えを求めることができる。(考)(表)(知)	3
④電たくを使ったわり算	44	• 電卓を使った大きな数のわり算と答えの確かめ	• わり算を電卓で行ったり、答えの確かめをすることができる。(考)(表)	1
たしかめ道場	45	• 4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	46	ステップ「計算島めぐり」 • (2, 3桁) ÷ (2桁) の計算の補充	• (2, 3桁) ÷ (2桁) の筆算が確実にできる。(関)(表)(知)	—
	47	ジャンプ「電たくを使ったあまりのあるわり算」 • 商が小数になる場合の電卓を使った商と余りの出し方	• 商が小数になる場合の商と余りを電卓を使って求めることができる。(関)(考)(表)	

ふく習		
ページ	学習内容	指導時数・時期
48	既習事項の確認と持続	2時間 2学期制：12月中旬 3学期制：12月中旬

11 記録を整理して表に表そう【調べ方と整理のしかた】				
目 標	指導要領の該当項目	指導時数・時期		
• 身近な事象を2つの観点別に整理し、2次元の表に表して、その事象の特徴をつかむ力を深める。	D(3)ア, イ	4時間 2学期制：1月中旬 3学期制：1月中旬		
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	49～51	• 2つの観点で調べることへの動機づけ	• 資料を1つの観点で調べることを通して、2つの観点で調べることに関心をもつ。 (関)(考)	1
	52～53	• 2つの観点で調べ、2次元の表にまとめること	• 身近な資料を2つの観点で調べ、2次元の表にまとめることができる。(考)(表)	2
たしかめ道場	54	• 4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	55	ステップ「いろいろなもの調べ」 • 2次元の表のよみ方 • 2次元の表のかき方	• 2次元の表を正確によむことができる。(関)(考)(表) • 事項を分類し、適切に2次元の表にまとめることができる。 (関)(考)(表)	—
	56	ジャンプ「なかまに分けて考えよう」 • 共通部分がある場合の分類と表のよみ方	• 2次元の表を使って分類し、条件に合うものの数を求める ことができる。 (表)(考)(表)	

ふく習		
ページ	学習内容	指導時数・時期
57	既習事項の確認と持続	2時間 2学期制：1月下旬 3学期制：1月下旬

● 変わり方

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
・伴って変わる2つの数量の関係を式に表したり、変化の様子を表や折れ線グラフに表して調べる。		D(3)ウ 第3-1(2), (4)	3時間 2学期制：1月下旬 3学期制：1月下旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	58~61	・伴って変わる2つの数量の関係を式に表したり、変化の様子を表や折れ線グラフに表して調べること	・伴って変わる2量の関係を式に表したり、変化の様子を表や折れ線グラフに表して調べることができる。(考)(表)	3

12 はしたの大きさのべつの表し方を考えよう [分数]

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
・端数部分などを表すのに分数を用いることを知り、分数の意味や表し方を理解する。		A(5)	10時間 2学期制：2月上旬～下旬 3学期制：2月上旬～下旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	62~63	・両手を広げた長さの測定による分数への動機づけ	・分数の意味を理解し、いろいろな量を分数で表すことができる。また、1より大きい分数についても、単位分数のいくつ分という見方ができる。(関)(表)(知)	3
①はしたの大きさの表し方	63~66	・分数の意味と表し方 ・いろいろな量の分数表示 ・1より大きい分数の表し方 ○分の1, 分数, 分母, 分子, 1/10の位	・分数を数としてとらえ、大小比較ができる。(表)(知)	6
②分数の大きさ	67~72	・数としての分数の系列、大小 ・分数の分類とそれらの関係 真分数, 仮分数, 帯分数	1	
たしかめ道場	73	・4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	74	ステップ「分数トーナメント」 ・同分母分数の大小に着目したパズル ジャンプ「分母のちがう分数の大きさくらべ」 ・分子の等しい異分母分数の大小比較	・同分母分数の大小を的確に判断することができる。(関)(考)(表) ・分子の等しい異分母分数の大小を数直線を使って判断することができる。(関)(考)(知)	—

もうすぐ 5年生（4年の復習）

ページ	学習内容	指導時数・時期
72~75	・数と計算 ・量とはかり方 ・図形 ・数量の関係、問題の見方・考え方	6時間 2学期制：3月上旬～中旬 3学期制：3月上旬～中旬

みらいへのつばさ				
小見出し	ページ	学習内容	評価の観点	時数
ごみゼロ大作戦	80～81	• ごみやごみのリサイクルを通して、算数との関わりを見出し、問題を解決すること	• 身近な事象と算数との関わりに気づき、自ら算数を活用して問題を解決しようとする。(関)(表)	—
マンホールのふたはなぜまるい？	82～83	• マンホールのふたなど幅の等しい等幅曲線についての考察	• マンホールのふたがまるい理由を論理的に考えることができます。(関)(考)(表)	

※各単元末および巻末にある「みらいへのつばさ」には、少人数学習など個に応じた柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。すべての児童が一律に学習する必要はありません。

第5学年 単元一覧表

上巻

2学 期制	3学 期制	大単元	配当 時数	指導内容 <用語・記号>
4月 (11)	4月 (10)	1. 小数	8	<ul style="list-style-type: none"> • 1/100, 1/1000 の位までの小数の表し方 • 1, 0.1, 0.01, 0.001 の相互の関係 • 小数の加法的構成と相対的な大きさ <1/100 の位, 1/1000 の位, 小数第2位, 小数第3位> • 記数法のしくみと10倍や100倍, 10分の1や100分の1
		* 復習	1	<ul style="list-style-type: none"> • 既習内容の理解の確認と持続
5月 (17)	5月 (17)	2. 垂直・平行と四角形	15	<ul style="list-style-type: none"> • 2直線の関係と垂直・平行 <垂直, 平行> • 垂直・平行の関係と性質, 垂直や平行な直線の作図 • 台形, 平行四辺形の概念と弁別 <台形, 平行四辺形> • 平行四辺形の性質と作図 • ひし形の概念と作図 <ひし形> • 対角線の意味と性質 <対角線>
		● 整数の見方	1	<ul style="list-style-type: none"> • 偶数, 奇数の意味 <偶数, 奇数>
6月 (17)	6月 (17)	* 復習	1	<ul style="list-style-type: none"> • 小数と整数のしくみの復習
		3. 小数×整数, 小数÷整数	12	<ul style="list-style-type: none"> • 小数×整数の計算の意味とその仕方 • (1/10の位の小数) × (1, 2位数) の筆算 • 小数÷整数の計算の意味とその仕方 • (1/10の位の小数) ÷ (1, 2位数) の筆算 • わり進む場合の筆算, 商を概数で表すこと • 小数の乗除の演算決定問題と作問
7月 (10)	7月 (10)	4. 三角形・四角形の角	6	<ul style="list-style-type: none"> • 三角形の内角の和を調べること • 四角形・五角形の内角の和を調べること • 四角形による平面の敷き詰め
		◎ 変わり方のきまり	2	<ul style="list-style-type: none"> • 少ない場合から順に調べ, きまりをみつけて解く問題
7月 (11)		* 復習	2	<ul style="list-style-type: none"> • 既習内容の理解の確認と持続
		1学期(3学期制)の時数		48時間 (予備時数6時間) [標準時数: 54時間]
8～9月 (19)	9月 (16)	5. 小数×小数, 小数÷小数	18	<ul style="list-style-type: none"> • 小数をかけることの意味と立式, 計算の仕方 • 小数倍の意味と適用 • 小数でわることの意味と立式, 計算の仕方 • わり進む場合, 商を概数で処理する場合の筆算の仕方 • 余りがある場合の小数点の位置, 確かめの式 • 乗数と積, 除数と商の大小関係 • 小数の乗法・除法の演算決定問題, 作問
		● 式と計算	5	<ul style="list-style-type: none"> • 四則計算のきまり(結合法則, 交換法則, 分配法則) • 計算のきまりの活用と計算の工夫 • 式の形に着目して特徴をよみ, 問題解決に活用すること • 乗法と除法, 加法と減法の関係
	10月 (18)	* 復習	1	<ul style="list-style-type: none"> • 既習内容の理解の確認と持続
		◆ みらいへのつばさ	—	点字のしくみ/切り紙遊び
前期(2学期制)の時数				72時間 (予備時数3時間) [標準時数: 75時間]

下巻

2 学期制	3 学期制	大単元	配当時数	指導内容 <用語・記号>
10月 (13)	10月 (18)	6. 面積	12	<ul style="list-style-type: none"> 直角三角形、鋭角三角形の面積を求めるここと 三角形の面積公式 <底辺、高さ> 平行四辺形の面積の求める方と面積公式 高さが外に出る場合の三角形・平行四辺形の面積の求め方 台形、ひし形の面積 三角形の面積の関数的見方、式のよみ
11月 (17)	11月 (17)	● 計算の見積もり	3	<ul style="list-style-type: none"> 和や差の見積もりの必要性 和や差の見積もりの仕方 日常場面における見積もりの活用
		7. 分数	8	<ul style="list-style-type: none"> 分数の相等関係 同分母分数の加減の立式と計算の仕方 分数の第二義 (=商分数)、わり算と分数 分数と整数・小数の関係
12月 (13)	12月 (13)	◎ 同じものに目をつけ て	2	・相殺・置換の考え方を用いて解く問題
		* 復習	2	・既習内容の理解の確認と持続
2 学期(3 学期制)の時数		51 時間 (予備時数 13 時間) [標準時数 : 64 時間]		
1月 (11)	1月 (11)	8. 割合	13	<ul style="list-style-type: none"> 割合の意味、割合の求め方 <割合> 割合、くらべる量、もとにする量を求めるここと 百分率の意味 <百分率、%, パーセント> 帯グラフ・円グラフのよみ方とかき方 <帯グラフ、円グラフ> 割合の和、積を考えて解く問題
2月 (13)	2月 (13)	* 復習	1	・既習内容の理解の確認と持続
		◎ 人文字	2	・必ずしも直線でない場合の植木算の問題
		9. 円周と円の面積	8	<ul style="list-style-type: none"> 円周と直径の関係 (円周率を求めるここと) <円周、円周率> 直径と円周の関数的関係、円周率 π を使った直径の概測 円の面積の求め方と公式
3月 (8)	3月 (8)	* もうすぐ 6 年生	5	・第 5 学年の総復習
		◆ みらいへのつばさ	—	博物館見学／図形の面積について考えてみよう／正多角形
3 学期(3 学期制)の時数		29 時間 (予備時数 3 時間) [標準時数 : 32 時間]		
後期(2 学期制)の時数		56 時間 (予備時数 19 時間) [標準時数 : 75 時間]		

年間総時数

128 時間 (予備時数 22 時間) [標準時数 : 150 時間]

注 1 : 月の欄の()の数字は、月当たりの指導時数ですが、標準時数が年間の週の数で割り切れないため、目安を示しています。

注 2 : 指導時数には復習の時間も含んでいます。復習を柔軟に扱うことでの、予備時間はさらに増えます。

注 3 : < >内の太字はその単元で学習する新しい用語・記号です。

第5学年 単元別学習内容一覧

上巻

1 小数のしくみを調べよう [小数]				
目 標	指導要領の該当項目		指導時数・時期	
• 小数点以下2桁以上の中のしくみについて知り、整数と小数が十進位取り記数法に基づいていることを理解する。	A(2)		8時間 2学期制：4月中旬～下旬 3学期制：4月中旬～下旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	1~3	• 小数と整数のしくみへの動機づけ	• 小数点以下2桁以上の小数のよみ方やかき方を理解する。 (考)(知)	2
①小数の表し方	3~5	• 小数点以下2桁以上の小数のよみ方、かき方		
②数のしくみ	6~10	• 整数・小数の十進位取り記数法のしくみとその理解 1/100の位、1/1000の位 小数第2位、小数第3位	• 小数も整数と同じように十進位取り記数法に基づいていることを知り、位間の関係を理解する。(考)(知)	5
たしかめ道場	11~12	• 4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	13	ステップ「小数アスレチック」 • 小数のしくみに基づくパズル	• 小数の構成に基づいて迷路を通ることができる。 (関)(考)(知) • 10倍、10分の1の関係を使って、正しく道を通ることができる。(関)(考)(表)	—
	14	ジャンプ「1/100の位の小数のたし算・引き算」 • 小数点以下2桁以上の小数の加減計算	• 小数点以下2桁以上の小数の加減計算の仕方を理解することができる。 (関)(考)(表)	

復習

ページ	学習内容	指導時数・時期
15	• 既習事項の確認と持続 • 次単元のレディネスチェック	1時間 2学期制：4月下旬 3学期制：4月下旬

2 直線の交わり方を調べよう [垂直・平行と四角形]

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
• 平面上の2直線の垂直や平行の意味を知り、垂直や平行な直線をかくことができる。 • 台形、平行四辺形、ひし形の概念と辺や角、対角線の性質について理解する。		C(1)ア, イ, ウ	15時間 2学期制：4月下旬～5月中旬 3学期制：5月上旬～下旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点
(課題設定)	16～17	• 直線の交わり方の観察による垂直、平行への動機づけ	• 2つの直線について垂直・平行の関係を理解する。 (関)(考)(知)
①垂直と平行	17～21	• 2直線の垂直、平行の関係 垂直、平行	
②垂直や平行な直線のかき方	22～26	• 三角定規や方眼紙を使った垂直、平行な直線のかき方 • 垂直、平行を使った長方形のかき方	• 三角定規や方眼紙を使って、垂直、平行な2直線をかくことができる。(考)(表)
③四角形	27～34	• 台形、平行四辺形、ひし形の概念とその性質の理解 台形、平行四辺形、ひし形、対角線	• 台形、平行四辺形、ひし形について知り、それらの性質を理解する。(関)(考)(知)
たしかめ道場	35	• 4観点に基づく評価とふりかえり	
みらいへのつばさ	36～37	ステップ「垂直・平行さがし」 • 方眼紙を使った垂直・平行 ジャンプ「形づくり」 • タングラム	• 直線の一部から垂直・平行な組をみつけることができる。 (関)(考)(知) • ピースを並べ替えて、いろいろな形をつくることができる。 (関)(考)(表)

● 整数の見方

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
• 偶数と奇数の意味を知り、整数が偶数と奇数に分類できることを理解する。		A(1)	1時間 2学期制：5月下旬 3学期制：5月下旬
	38～39	• 偶数・奇数の意味と整数が偶数と奇数とに類別できることの理解 偶数、奇数	• 偶数と奇数の意味を知り、整数が偶数と奇数とに類別できることを理解する。 (考)(表)(知)

復習

ページ	学習内容	指導時数・時期
40	• 既習事項の確認と持続 • 次単元のレディネスチェック	1時間 2学期制：5月下旬 3学期制：6月上旬

3 小数の計算のしかたを考えよう [小数×整数, 小数÷整数]

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• 小数に整数をかけたり、整数でわったりする計算の仕方を理解し、筆算で計算できるようにする。		A(3)ア 内容の取扱い(1)	12時間 2学期制：6月上旬～下旬 3学期制：6月上旬～下旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	41	• (小数) × (整数) の学習への動機づけ	• (小数) × (整数) の計算の仕方を理解し、筆算で計算できる。(関)(考)(表)	4
①小数のかけ算	41～45	• (1/10の位までの小数) × (整数) の意味と計算の仕方	• (小数) ÷ (整数) の仕方を理解し、筆算で計算できる。(考)(表)	7
②小数のわり算	46～52	• (1/10の位までの小数) ÷ (整数) の意味と計算の仕方	• 4 観点に基づく評価とふりかえり	1
たしかめ道場	53			
みらいへのつばさ	54	ステップ「小数の計算ドライブ」 • 小数×整数、小数÷整数の補充 • 商が小数になる除法の補充	• 小数×整数や小数÷整数の計算をして迷路を進むことができる。(関)(表) • 小数÷整数の商を概数にして正しい答えをみつけることができる。(関)(表)	—
	55	ジャンプ「小数計算ランド」 • 小数×整数、小数÷整数のオペレータ	• 小数×整数と小数÷整数の逆の関係を理解し、計算ができる。(関)(考)(表)	

4 三角形の角を調べよう [三角形・四角形の角]

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• 三角形や四角形の内角の和について理解する。		C(1)ウ 内容の取扱い(5)	6時間 2学期制：6月下旬～7月上旬 3学期制：6月下旬～7月中旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	56	• 三角形の内角の和についての動機づけ	• 三角形と四角形の内角の和がそれぞれ 180° , 360° であることを理解する。(考)(表)(知)	5
	56～61	• 三角形、四角形の内角の和 • 平行四辺形、台形によるしきつめ	• 平行四辺形や台形によって平面がしきつめられることを理解する。(関)(考)(表)	
たしかめ道場	62	• 4 観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	63	ステップ「角度をはかろう」 • 三角形の角が変化するときの内角の和	• 三角形の角の大きさが変化しても内角の和が 180° になっていることを確かめることができる。(関)(表)(知)	—
		ジャンプ「たくさんの角の和」 • 多角形の内角の和	• 多角形の内角の和について論理的に考えて求めることができる。(関)(考)	

◎ ドルフィンのまほう学校 変わり方のきまり				
目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
・伴って変わる2量について、表に表してきまりを考察したり、式に表してきまりをみつけて問題を解決する。		D(4) 第3-1(2), (4)	2時間 2学期制：7月上旬 3学期制：7月中旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	64～65	・伴って変わる2量の関係を表に表し、変わり方のきまりをみつけること	・伴って変わる2量の関係を表に表し、きまりをみつけて問題を解決することができる。 (考)(表)	2

復習			
ページ	学習内容	指導時数・時期	
66～67	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	2時間 2学期制：7月上旬 3学期制：7月中旬	

5 さらに小数の計算のしかたを考えよう [小数×小数, 小数÷小数]				
目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
・小数をかけたり、わったりすることの意味がわかり、それらの計算の仕方を理解し、筆算ができる。		A(3)イ, ウ 内容の取扱い(2)	18時間 2学期制：7月中旬～9月中旬 3学期制：9月上旬～10月上旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	68～69	・×(小数)の学習への動機づけ	・小数をかける意味と計算の仕方を知り、答えを求めることができる。(考)(表)(知)	8
①小数をかける計算	69～77	・小数をかける意味とその計算の仕方の理解		
②小数でわる計算	78～85	・小数でわる意味とその計算の仕方の理解	・小数でわる意味と計算の仕方を知り、答えを求めることができる。(考)(表)(知)	7
③どんな計算になるのかな	86～87	・小数の乗除計算の演算決定	・小数の乗除の場面で、適切に演算を選択し、答えを求めることができる。(表)(知)	2
たしかめ道場	88	・4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	89	ステップ「小数計算工場」 ・小数×小数, 小数÷小数の補充	・小数×小数, 小数÷小数の計算をしながら、ゴールまでたどり着くことができる。 (関)(表)	—
	90～91	ジャンプ「1/100の位の小数のかけ算・わり算」 ・小数点以下2桁以上的小数の乗除計算	・小数点以下2桁以上的小数の乗除計算の仕方を考えることができる。(関)(考)(表)	

● 式と計算

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
・整数で学習した交換、結合、分配などの計算法則が、小数になっても成り立つことを理解する。 ・計算のきまりを使って、工夫して計算ができる。		D(1)	5時間 2学期制：9月下旬 3学期制：10月上旬～中旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点
	92～97	<ul style="list-style-type: none"> ・交換、結合、分配の各法則が小数の場合にも成り立つこと ・計算のきまりを使って、工夫して計算すること ・式を見て、具体的な場面をよみとること 	<ul style="list-style-type: none"> ・整数で用いたいいろいろな計算法則が小数の場合にも成り立つことを理解する。(考)(知) ・式を見て具体的な場面をよみとることができる。(関)(考)(表)

復習

ページ	学習内容	指導時数・時期
98	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の確認と持続 次単元のレディネスチェック 	1時間 2学期制：9月下旬 3学期制：10月中旬

みらいへのつばさ

小見出し	ページ	学習内容	評価の観点	時数
点字のしくみ	100～101	<ul style="list-style-type: none"> 点字で表された数のしくみ 	<ul style="list-style-type: none"> 点字で表された数のしくみを理解し、よんだり、表したりすることができます。(関)(考)(知) 	—
切り紙遊び	102～103	<ul style="list-style-type: none"> 線対称な図形 	<ul style="list-style-type: none"> 線対称な図形について知り、弁別したり、対称の軸をみつけたりすることができます。(関)(考)(表) 	

※各単元末および巻末にある「みらいへのつばさ」には、少人数学習など個に応じた柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。すべての児童が一律に学習する必要はありません。

6 面積の求め方を考えよう【面積】

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
<ul style="list-style-type: none"> ・三角形や平行四辺形の面積の公式を理解し、公式を使って面積を求めることができる。 ・三角形の高さや底辺の長さと面積などの関係について、2量の対応や変わり方に着目して、数量の関係を考察する。 		B(1)ア	12時間 2学期制：10月中旬～ 11月上旬 3学期制：10月中旬～ 11月上旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点
(課題設定)	1～3	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形や四角形の面積の学習への動機づけ 	• 三角形の面積の求め方を考え、公式を使って面積を求めることができる。(考)(表) 4
①三角形の面積	3～7	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形の面積の求め方を考え、公式を使って求めること ・四角形の面積を三角形に分けて求めること <p style="text-align: right;">高さ、底辺</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・四角形の面積を2つの三角形に分けて求めることができる。(考)(表)
②平行四辺形の面積	8～9	<ul style="list-style-type: none"> ・平行四辺形の面積の求め方についていろいろ考え、公式を使って面積を求めるこ 	• 平行四辺形の面積のいろいろな求め方を考え、公式を使って面積を求めることができる。(考)(表) 1
③いろいろな三角形・四角形の面積	10～13	<ul style="list-style-type: none"> ・高さが外にはみ出す場合の三角形・平行四辺形にも面積の公式が使えること <p style="text-align: center;">【コラム】台形の面積、ひし形の面積</p>	• 高さが外にはみ出す場合の三角形・平行四辺形にも面積の公式が使えることをりかいし、面積を求めることができる。(関)(考) 4
④面積の問題	14～15	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形の高さや底辺の長さを変化させ、面積がどう変わるかを表に表して調べること ・式を見て考え方をみつけること 	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形の高さや底辺と面積の関係がわかる。(考)(表) ・式を見てどう考えたかがわかる。(考)(表)
たしかめ道場	16	• 4観点に基づく評価とふりかえり	1
みらいへのつばさ	17	ステップ「形づくりと面積」 <ul style="list-style-type: none"> ・面積が半分の図形作り ・一定の面積の図形さがし 	<ul style="list-style-type: none"> ・面積が半分の図形を作ることができる。(関)(考)(表) ・面積が4 cm^2の図形をみつけることができる。(関)(考)(表)
	18	ジャンプ「たこ形やくさび形の面積」 <ul style="list-style-type: none"> ・たこ形やくさび形の面積の求め方 	• たこ形、台形、ひし形の面積をいろいろに考えて求めることができる。(関)(考)(表)

● 計算の見積もり

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
・見積もりの必要性に気づき、和や差を概数で見積もったり、100 や 1000 のまとめを作って見積もることができる。		A(5)	3 時間 2 学期制：11 月中旬～下旬 3 学期制：11 月中旬～下旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	19～22	<ul style="list-style-type: none"> ・和や差を概数で求める仕方 ・切り捨てや切り上げによる見積もり ・100 や 1000 のまとめを作った見積もり 	<ul style="list-style-type: none"> ・見積もりの必要性に気づき、和や差を概数で見積もることができる。(関)(表) ・必要に応じて少なめに見積もったり、多めに見積もったり、100 や 1000 のまとめを作って見積もることができる。(考)(表)(知) 	3

7 分数を調べよう [分数]

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
・同分母分数の加減の意味がわかり、計算ができる。 ・整数の除法の結果は分数を用いると 1 つの式に表されるこ とや分数と小数・整数の関係を理解する。 ・等しい分数があることを知る。		A(4) 内容の取扱い(3)	8 時間 2 学期制：11 月下旬～ 12 月中旬 3 学期制：11 月下旬～ 12 月中旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	23	・テープ作りによる分数の学習の動機づけ	・表現の異なる等しい分数があ ることを理解できる。 (考)(表)(知)	1
①等しい分数	23～25	・分数の相等関係		
②分数のたし算や ひき算	26～28	・同分母分数の加減の意味と計算の仕方	・同分母分数の加減計算の意味 がわかり、答えを求めること ができる。(考)(表)	3
③分数と小数・整 数の関係	29～31	・商と分数の関係(分数の第二義) ・分数と小数・整数の関係	・整数の除法の結果を分数で表 すことができる。(考)(表) ・分数を小数、小数や整数を分 数で表すことができる。 (考)(表)	3
たしかめ道場	32	・4 観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	33	ステップ「分数の大きさの色なり」 ・特定の分数と答えが等しくなる式をみつ けること	・特定の分数と答えが等しくな る式を適切にみつけること ができる。(関)(考)(表)	—
		ジャンプ「帶分数のはいった計算」 ・帶分数を含む分数の加減計算	・帶分数を含む分数の加減計算 ができる。(関)(考)(表)	

◎ ドルフィンのまほう学校 同じものに目をつけて

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期		
• 四則のやや複雑な問題を相殺や置換の考え方を使って解くことができる。		D(4) 第3-1(2), (4)	2時間 2学期制：12月中旬 3学期制：12月中旬		
小単元	ページ	学習内容		評価の観点	時数
	34～35	• 相殺・置換により単純な問題に帰着させて考える問題		• さしひいたり、おきかえたりする考えを使って問題を単純化することができる。 (考)(表)	2

復習

ページ	学習内容	指導時数・時期
36～37	• 既習事項の確認と持続 • 次単元のレディネスチェック	2時間 2学期制：12月中旬 3学期制：12月中旬

8 くらべ方を考えよう [割合]

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• 割合の意味について理解し、小数や百分率を用いて問題を処理することができる。 • 求めた割合を帯グラフや円グラフに表すことができる。		D(2), (3) 内容の取扱い(6)	13時間 2学期制：1月中旬～2月上旬 3学期制：1月中旬～2月上旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	38～39	• 体験学習の希望調査による割合の学習の動機づけ	• 割合の意味を理解し、割合やくらべる量、もとにする量を計算によって求めることができる。(考)(表)(知)	4
①割合	39～43	• 割合の意味を理解し、割合、くらべる量、もとにする量を求める 割合		
②百分率	44～47	• 百分率について理解し、問題を処理すること 百分率, %, 割, 分, 厤	• 百分率の意味を理解し、割合を表す小数に直して計算することができる。 (考)(表)(知)	4
③割合のグラフ	48～51	• 帯グラフや円グラフのよみ方、かき方 帯グラフ, 円グラフ	• 帯グラフや円グラフのよみ方やかき方を理解する。 (表)(知)	2
④割合を使って	52～53	• 割合の和や積を考えて解く問題	• 割合の和や積を考えて、問題を解くことができる。 (考)(表)	2
たしかめ道場	54	• 4 観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	55	ステップ「割合でお買い物」 • 商品の値段で割合の計算をすること	• 値引率に着目して割合の計算をすることができる。 (関)(考)(表)	—
	56	ジャンプ「グラフづくり」 • 割合を使ったグラフ作り	• 自分で調べたことを割合を使ったグラフに表すことができる。 (関)(表)(知)	

復習

ページ	学習内容	指導時数・時期
57	既習事項の確認と持続	1時間 2学期制：2月上旬 3学期制：2月上旬

◎ ドルフィンのまほう学校 人文字

目標	指導要領の該当項目	指導時数・時期		
一定の間隔で並んだ人の数と間の数の関係に目をつけて問題を解くことができる。	第3-1(2), (4)	2時間 2学期制：2月中旬 3学期制：2月中旬		
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	58~59	必ずしも直線でない場合の植木算	並んだ人の数と間の数の関係に目をつけて問題を解くことができる。(考)(表)	2

9 円をくわしく調べよう [円周と円の面積]

目標	指導要領の該当項目	指導時数・時期		
円の直径と円周の関係、円周率の意味、円の面積の求め方を理解する。	B(1)イ C(1)ウ、エ 内容の取扱い(4)	8時間 2学期制：2月中旬～3月上旬 3学期制：2月中旬～3月上旬		
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	60~61	円の直径と円周の比較による円の学習への動機づけ 円周	円の直径や円周の長さに着目し、円の学習に関心をもつ。 (関)(考)	1
①円周と直径	62~65	円の直径と円周の関係と円周率の意味 円周率	円周率の意味を理解し、公式を使って円周を求めることができる。 (考)(表)(知)	3
②円の面積	66~70	円の面積について見当づけたり、方眼を使って求めること	公式を使って円の面積を求めることができる。 (考)(表)	3
たしかめ道場	71	4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	72	ステップ「ピザの大きさくらべ」 一定の大きさの正方形の箱に入れたピザの面積比べ	どのピザも面積が等しくなることが理解できる。 (関)(考)(知)	—
	73	ジャンプ「まわりの長さは？」 周から1m離れて1周したときの道のり	1周の長さが半径1mの円周分だけ長くなることが理解できる。 (関)(考)(表)	

もうすぐ 6年生（5年の復習）

ページ	学習内容	指導時数・時期
74~78	数と計算 量とはかり方、図形、数量の関係 問題の見方・考え方	5時間 2学期制：3月中旬 3学期制：3月中旬

みらいへのつばさ

小見出し	ページ	学習内容	評価の観点	時数
博物館見学	80～81	・多種多様な情報から適切に選択し、問題を解決すること	・多種多様な情報から適切に選択し、問題を解決することができる。(関)(表)	—
図形の面積について考えてみよう	82～83	・図形の面積についての多様な見方	・図形について多様な見方をし、面積を求めることができる。(関)(考)(表)	
正多角形	84～85	・正多角形の意味と性質	・正多角形について知り、円周を使った作図ができる。(関)(考)(表)	

※各単元末および巻末にある「みらいへのつばさ」には、少人数学習など個に応じた柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。すべての児童が一律に学習する必要はありません。

第6学年 単元一覧表

上巻

2学 期制	3学 期制	大単元	配当 時数	指導内容 <用語・記号>
4月 (11)	4月 (10)	1. 立体	11	<ul style="list-style-type: none"> 直方体や立方体の概念と性質 <直方体, 立方体> 直方体や立方体の見取図, 展開図 <見取図, 展開図> 面や辺の平行, 垂直関係 <角柱, 円柱, 底面, 側面, 曲面>
5月 (17)	5月 (17)	2. 倍数と約数	10	<ul style="list-style-type: none"> 倍数の意味とみつけ方 <倍数> 公倍数, 最小公倍数の意味 <公倍数, 最小公倍数> 約数の意味 <約数> 公約数, 最大公約数の意味 <公約数, 最小公約数>
6月 (17)	6月 (17)	3. 平均とその利用	7	<ul style="list-style-type: none"> 平均の意味 <平均> 平均を求め, 問題解決に活用すること 部分の平均から全体の平均を求めるこ 歩幅による概測と利用
	*	復習	1	既習内容の理解の確認と持続
	◎	だれでしょう	1	論理を使って, 条件に合うものをみつける問題
6月 (17)	7月 (10)	4. 分数のたし算とひき算	7	<ul style="list-style-type: none"> 約分の意味とその仕方 <約分する> 通分の意味とその仕方 <通分する> 異分母分数の加減計算
	●	計算の見積もり	3	<ul style="list-style-type: none"> 見積もりの必要性 積・商の見積もりとその仕方
	*	復習	2	既習内容の理解の確認と持続
7月 (11)	1学期(3学期制)の時数		42時間 (予備時数12時間) [標準時数: 54時間]	
	9月 (16)	5. 単位量あたりの大きさ	9	<ul style="list-style-type: none"> 単位量あたりの考え方とその意味 <人口密度> 速さの概念 <速さ> 速さの公式と適用題 <時速, 分速, 秒速> 時速・分速・秒速の関係
8~9月 (19)	◎	変わり方のきまりをみつけて(1)	2	2量の変わり方の和, 差に着目して解く問題
	*	復習	1	既習内容の理解の確認と持続
	6.	比例	9	<ul style="list-style-type: none"> 比例の定義と性質 <比例する> 比例のグラフのかき方, 比例のグラフのよみ
	◎	変わり方のきまりをみつけて(2)	2	整数解をみつける問題
	*	復習	1	既習内容の理解の確認と持続
	★	みらいへのつばさ	—	積のけた数／正三角形で立体をつくろう
前期(2学期制)の時数			66時間 (予備時数9時間) [標準時数: 75時間]	

下巻

2 学期制	3 学期制	大単元	配当時数	指導内容 <用語・記号>
10月 (13)	10月 (18)	7. 体積	9	<ul style="list-style-type: none"> • 体積の概念とその表し方 <体積> • 体積の普遍単位「立方センチメートル, 立方メートル」 <cm^3, m^3> • 直方体と立方体の体積の求め方と公式 • L字型やU字型の体積の求積
11月 (17)	11月 (17)	● およその形と大きさ	3	<ul style="list-style-type: none"> • 図形の概形をとらえた、面積や体積の概測
		* 復習	1	<ul style="list-style-type: none"> • 既習内容の理解の確認と持続
		8. 分数×整数, 分数÷整数	3	<ul style="list-style-type: none"> • 分数×整数の意味と計算の仕方 • 分数÷整数の意味と計算の仕方
		9. 分数×分数, 分数÷分数	13	<ul style="list-style-type: none"> • 分数をかけることの意味と計算の仕方 • いろいろな量を表す分数(面積, 時間)と適用 • 分数でわることの意味と計算の仕方 • 分数の乗除の演算決定問題と作問
12月 (13)	12月 (13)	* 復習	1	<ul style="list-style-type: none"> • 既習内容の理解の確認と持続
		2 学期(3学期制)の時数		54 時間 (予備時数 10 時間) [標準時数 : 64 時間]
1月 (11)	1月 (11)	10. 比とその利用	5	<ul style="list-style-type: none"> • 比を使った割合の表し方, 比の意味 <:, 比> • 等しい比とその性質
		* 復習	1	<ul style="list-style-type: none"> • 既習内容の理解の確認と持続
		◎ 割合を使って	3	<ul style="list-style-type: none"> • 全体を1とし, 部分の割合を考えて解く問題 • 全体を1とし, 部分の割合の和を考えて解く問題
2月 (13)	2月 (13)	* 算数パスポート (6年のまとめ)	14	<ul style="list-style-type: none"> • 数と量 • 計算と見積もり • 図形 • 数量の関係 • 問題の見方・考え方
3月 (8)	3月 (8)	★ 算数島の大冒険	—	<ul style="list-style-type: none"> • 二度とわたれない8つの橋／星の数ほどさく花の種／すばやく数えられる石だん／古代の不思議なネックレス／港のまほうの飛行場／まほうにかけられた三姉妹／消えかけた古代のへき画／たった1つの復活のなえ木／石できているのに黄金ピラミッド／なぞを解いてひらけごま／算数大博士のじょう号／算数偉人伝
		3 学期(3学期制)の時数		23 時間 (予備時数 9 時間) [標準時数 : 32 時間]
後期(2学期制)の時数				53 時間 (予備時数 22 時間) [標準時数 : 75 時間]

年間総時数	119 時間 (予備時数 31 時間) [標準時数 : 150 時間]
-------	-------------------------------------

注1：月の欄の()の数字は、月当たりの指導時数ですが、標準時数が年間の週の数で割り切れないため、目安を示しています。

注2：指導時数には復習の時間も含んでいます。復習を柔軟に扱うことで、予備時間はさらに増えます。

注3：<>内の太字はその单元で学習する新しい用語・記号です。

第6学年 単元別学習内容一覧

上巻

1 いろいろな箱の形を調べよう [立体]

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
・観察を通して直方体、立方体を理解し、見取図や展開図がかけ、紙やひごで構成することができる。また、面や辺の垂直・平行の関係がわかる。	・角柱や円柱について理解する。	C(1) 内容の取扱い(6), (7)	11時間 2学期制：4月中旬～5月上旬 3学期制：4月中旬～5月上旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	1～3	・立体の分類による学習の動機づけ	・直方体・立方体を理解し、見取図や展開図をかいたり、作ったりすることができる。 (関)(表)(知)	4
①直方体と立方体	3～7	・直方体、立方体の理解と見取図や展開図のかき方 直方体、立方体、見取図、展開図	・面や辺の垂直・平行の関係を理解できる。 (考)(表)(知)	4
②面や辺の平行と垂直	8～11	・面や辺の垂直・平行 平面	・面や辺の垂直・平行の関係を理解できる。 (考)(表)(知)	4
③角柱と円柱	12～13	・角柱、円柱の理解 角柱、円柱、底面、側面、曲面	・角柱と円柱について理解し、それらを弁別することができる。 (表)(知)	2
たしかめ道場	14～15	・4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	16	ステップ「立方体の展開図づくり」 ・11種類の直方体の展開図を作ること	・立方体の展開図づくりに関心をもって取り組む。 (関)(表)	—
	17	ジャンプ「角すいと円すい」 ・角すい、円すいの製作	・角すいや円すいに関心をもち、作ることができる。 (関)(表)	

2 整数の性質を調べよう [倍数と約数]

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
・倍数や約数の意味を理解し、それらを求めたり、それらを使って問題を解決することができる。		A(1) 内容の取扱い(1)	10時間 2学期制：5月上旬～下旬 3学期制：5月上旬～下旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	18～19	・整数の仲間分けと学習の動機づけ	・倍数、公倍数の意味を理解し、それらを求めることができる。 (考)(表)(知)	5
①倍数と公倍数	19～24	・倍数、公倍数の意味とその求め方 倍数、公倍数、最小公倍数	・約数、公約数の意味を理解し、それらを求めることができる。 (考)(表)(知)	4
②約数と公約数	25～28	・約数、公約数の意味とその求め方 約数、公約数、最大公約数	・縦と横の数の最小公倍数や最大公約数を求めることができる。 (関)(表)(知)	—
たしかめ道場	29	・4観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	30	ステップ「表づくり」 ・最小公倍数や最大公約数の補充	・直接わり算をしないで、倍数を判定する方法を理解できる。 (関)(考)(知)	—
	31	ジャンプ「倍数の見わけ方」 ・簡単な倍数の判定法		

3 ならして考えよう [平均とその利用]

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
• 平均の意味を理解し、それを求めることができる。 • 平均を使って、長さなどの概測ができる。		D(3)	7時間 2学期制：5月下旬～6月上旬 3学期制：5月下旬～6月中旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点
(課題設定)	32～33	• ジュースをしぼる場面での平均の学習の動機づけ	• 平均の意味を理解し、それを求めたり、平均から全体の数を求めたりすることができる。 (表)(知)
①平均	33～37	• 平均の意味とその計算 平均	• 平均の考え方を使って歩幅や距離を測定することができる。 (考)
②平均を使って	38～39	• 歩幅を使った距離などの概測	• 平均が同じでも散ばりぐあいのちがう集団があることに気づく。 (関)(考)(知)
たしかめ道場	40	• 4観点に基づく評価とふりかえり	1
みらいへのつばさ	41	ステップ「積み木の平均」 • 積み木を使った操作による平均の理解	• 積み木を使って平均の意味を確かめることができる。 (関)(考)(知)
	42	ジャンプ「平均とちらばりぐあい」 • 平均と分散	• 平均が同じでも散ばりぐあいのちがう集団があることに気づく。 (関)(考)(知)

復習

ページ	学習内容	指導時数・時期
43	• 既習事項の確認と持続 • 次単元のレディネスチェック	1時間 2学期制：6月上旬 3学期制：6月中旬

◎ ドルフィンのまほう学校 だれでしょう

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
• 情報を取捨選択しながら、論理的に考えて正しい結論を出すことができる。		第3-1(2), (4)	1時間 2学期制：6月上旬 3学期制：6月下旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点
	44～45	• 論理的な推論により正しい結論を出すこと	• 情報を取捨選択して、論理的に考えることができる。 (関)(考)(表)

4 分数の計算のしかたを考えよう [分数のたし算とひき算]				
目標		指導要領の該当項目		指導時数・時期
• 約分・通分の意味とその仕方を理解する。 • 同分母分数の加減計算ができる。		A(2) 内容の取扱い(2)		7時間 2学期制：6月上旬～下旬 3学期制：6月下旬～7月上旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	46～47	• 分数の大小比較による学習の動機づけ	• 約分、通分の意味とその仕方を理解する。(表)(知)	4
①等しい分数	47～51	• 約分、通分の意味とその仕方 約分、通分		
②分数のたし算・ひき算	52～53	• 異分母分数の加減計算の仕方	• 異分母分数の加減計算の仕方を理解する。(考)(表)(知)	2
たしかめ道場	54	• 4 観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	55	ステップ「分数の色ぬり」 • 等しい分数 • 異分母分数の加減計算	• 等しい分数をみつけることができる。(関)(表) • 異分母分数の加減計算が正確にできる。(関)(表)(知)	—
	56	ジャンプ「いろいろな分数のたし算・ひき算」 • 3 口の分数加減計算や帶分数を含む異分母分数の加減計算	• 3 口や帶分数を含む場合も通分をして加減計算ができる。(関)(考)(表)	

● 計算の見積もり				
目標		指導要領の該当項目		指導時数・時期
• 見積もりの必要性に気づき、積や商を概数で見積もることができる。		A(4)		3時間 2学期制：6月下旬 3学期制：7月中旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
	57～59	• 積や商を概数で見積もること	• 見積もりの必要性に気づき、積や商を概数で見積もることができる。(関)(考)(表)	3

復習		
ページ	学習内容	指導時数・時期
60～61	• 既習事項の確認と持続	2時間 2学期制：7月上旬 3学期制：7月中旬

5 くらべ方を考えよう [単位量あたりの大きさ]

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
• 単位量あたりの考え方を用いて2つの量を比べたり、速さの意味や表し方を知り、速さに関する計算ができる。		B(3)	9時間 2学期制：7月上旬～中旬 3学期制：9月上旬～中旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点
(課題設定)	62～63	• 部屋割りの場面での学習の動機づけ	• 単位量あたりの考え方を理解し、それを使って数量を比べることができる。 (関)(考)(表)
①単位量あたりの大きさ	63～66	• 単位量あたりの考え方の理解と計算 人口密度	
②速さ	67～71	• 速さの意味とその計算 速さ、時速、分速、秒速	• 速さの意味を理解し、時速、分速、秒速を求めたり、問題を解決することができる。 (考)(表)
たしかめ道場	72	• 4観点に基づく評価とふりかえり	
みらいへのつばさ	73	ステップ「速さをはかろう」 • 実際に秒速を測定すること	• 実際に走ったり歩いたりして時間を測り、秒速を測定することができる。 (関)(表)
		ジャンプ「トンネルを通過する電車」 • 通過算	• 電車の長さを配慮しながら正しく計算をすることができる。 (関)(考)(表)

◎ ドルフィンのまほう学校 変わり方のきまりをみつけて(1)

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
• 2つの量の関係を表にかき、変わり方のきまりをみつけて、問題を解決することができる。		B(3)イ 第3-1(2), (4)	2時間 2学期制：9月上旬 3学期制：9月中旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点
	74～75	• 出会い算、追いつき算	• 2つの量の関係を表にかき、変わり方のきまりを的確にとらえて問題を解決することができる。 (考)(表)

復習

ページ	学習内容	指導時数・時期
76	既習事項の確認と持続	1時間 2学期制：9月上旬 3学期制：9月下旬

6 変化する2つの量を調べよう [比例]

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
• 比例の意味とその性質を理解し、グラフをよんだりかいたりすることができる。		D(2)	9時間 2学期制：9月中旬～下旬 3学期制：9月下旬～10月上旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点
(課題設定)	77～79	• 伴って変わるいろいろな量についての変わり方調べと学習の動機づけ	• 伴って変わる2つの量について、その性質を調べることに関心をもつ。(関)
①比例	80～83	• 比例の意味と性質の理解 比例	• 比例の意味と性質を理解し、2つの量が比例しているかどうかを判断することができる。(考)(表)(知)
②比例のグラフ	84～88	• 比例のグラフの読み方、かき方	• 比例のグラフが原点を通る直線になることを理解し、かくことができる。(表)(知)
たしかめ道場	89	• 4観点に基づく評価とふりかえり	
みらいへのつばさ	90	ステップ「自転車・自動車・電車」 • 複数のグラフを同一座標に表すこと	• 3つの乗り物について、時間と道のりの関係を表に表し、同一座標にグラフをかくことができる。(関)(考)(表)
	91	ジャンプ「はかり方のくふう」 • 比例を使った測定の工夫	• 比例の関係に着目して、紙の枚数などを測定する方法を考えることができる。(関)(考)(知)

◎ ドルフィンのまほう学校 変わり方のきまりをみつけて(2)

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
• 2つの量を変化させ、その和や差に着目して問題を解決することができる。		第3-1(2), (4)	2時間 2学期制：9月下旬 3学期制：10月中旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点
	92～93	• 2つの量を変化させ、和や差に着目して解決する問題	• 2つの量について、変化の様子を的確にとらえ、問題を解決することができる。(考)(表)

復習

ページ	学習内容	指導時数・時期
94	• 既習事項の確認と持続	1時間 2学期制：9月下旬 3学期制：10月中旬

みらいへのつばさ

小見出し	ページ	学習内容	評価の観点	時数
積のけた数	96～97	・桁数に着目した積の見積もり	・桁数に着目して、積の桁数を見積もることができる。 (関)(考)(表)	—
正三角形で立体をつくろう	98～99	・正三角形を使った多面体づくり	・正三角形を組み合わせて多面体を作ることができる。 (関)(考)(表)	

※各単元末および巻末にある「みらいへのつばさ」には、少人数学習など個に応じた柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。すべての児童が一律に学習する必要はありません。

下巻

7 カさを調べよう〔体積〕

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
・体積の普遍単位 cm^3 , m^3 を知り、それらを使って直方体や立方体の体積を求めることができる。		B(2) 内容の取扱い(5)	9時間 2学期制：10月中旬～ 11月上旬 3学期制：10月中旬～ 11月上旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点
(課題設定)	1～3	・直方体と立方体の体積の比較による学習の動機づけ	• 体積の普遍単位 cm^3 を知り、直方体や立方体の体積を求めることができる。(表)(知) 3
①直方体・立方体の体積	3～8	・体積の普遍単位 cm^3 の理解と体積の求め方 体積, cm^3, 立方センチメートル	
②大きな体積	9～12	・体積の普遍単位 m^3 の理解 ・辺の長さが小数の場合の求積 m^3, 立方メートル 【コラム】容積	• 体積の普遍単位 m^3 を知り、 1 m^3 と 1 cm^3 の関係を理解する。(表)(知) 4
③体積の求め方のくふう	13	・直方体を組み合わせた立体の体積を工夫して求めること	• 直方体を組み合わせた立体の体積の求め方を考えることができる。(関)(考)(表) 1
たしかめ道場	14	・4観点に基づく評価とふりかえり	1
みらいへのつばさ	15	ステップ「つくって体積を求めよう」 ・展開図からできる直方体の体積をもとめること	• 展開図を組み立ててできる直方体の体積を求めることができる。(関)(考)(表) 一
	16	ジャンプ「ピラミッドの体積」 ・四角すいの体積	• 実測を通して、四角すいの体積が、底面積と高さが等しい直方体の $1/3$ になることがわかる。(関)(表)(知)

● およその形と大きさ

目標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
・ものの概形をとらえ、およその面積や体積を求めることができる。		B(1)	3時間 2学期制：11月上旬 3学期制：11月上旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点
	17～19	・ものの概形をとらえ、およその面積や体積を求めること	• もとの概形をとらえて、求めやすい形とみなし、面積や体積を求めることができる。(関)(考)(表) 3

復習

ページ	学習内容	指導時数・時期
20	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1時間 2学期制：11月中旬 3学期制：11月中旬

8 分数のかけ算とわり算を考えよう [分数×整数, 分数÷整数]

目 標	指導要領の該当項目	指導時数・時期		
• 分数に整数をかけたり、整数でわったりする計算の仕方を理解し、計算することができる。	A(3)ア, ウ	3時間 2学期制：11月中旬～下旬 3学期制：11月上旬～下旬		
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	21	• 看板作りによる分数×整数の動機づけ	• 分数×整数、分数÷整数の計算の仕方を理解し、計算することができる。(考)(表)(知)	2
	21～23	• 分数×整数の立式と計算の仕方 • 分数÷整数の立式と計算の仕方		
たしかめ道場	24	• 4 観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	25	ステップ「分数計算工場」 • 分数×整数、分数÷整数の補充	• 分数×整数、分数÷整数の計算が正確にできる。(関)(表)	—
	26	ジャンプ「分数迷路」 • 分数に整数をかけたり、整数でわったりしながら進む迷路	• オペレーターに着目して、分数×整数、分数÷整数の計算が正確にできる。(関)(表)	

9 さらに分数のかけ算とわり算を考えよう [分数×分数, 分数÷分数]

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期	
• 分数をかけたり、分数でわったりすることの意味を理解し、計算することができる。		A(3)イ, ウ 内容の取扱い(4)	13時間 2学期制：11月下旬～ 12月中旬 3学期制：11月下旬～ 12月中旬	
小単元	ページ	学習内容	評価の観点	時数
(課題設定)	27	• ペンキ塗りの場面による分数をかける計算への動機づけ	• 分数をかける意味を理解し、分数×分数の計算をすることができる。(考)(表)(知)	4
①分数をかける計算	27～31	• 分数をかける意味と立式、計算の仕方		
②分数のかけ算を使って	32～34	• 割合を表す分数 • 分数で表された面積、時間	• 分数でいろいろな量が表されることを知り、それを使って分数のかけ算ができる。(表)(知)	3
③分数でわる計算	35～38	• 分数÷分数の立式と計算の仕方	• 分数のわり算の意味を理解し、計算することができる。(考)(表)	3
④分数のわり算を使って	39	• 分数のわり算を使って求める問題	• 分数で表されたいろいろな量を使って、分数のわり算ができる。(考)(表)	1
⑤どんな計算になるのかな	40	• 分数の乗除の演算決定問題	• 分数の乗除の場面で、適切に演算を選んで立式し、答えを求めることができる。(表)(知)	1
たしかめ道場	41	• 4 観点に基づく評価とふりかえり		1
みらいへのつばさ	42	ステップ「かけても ひいても、わっても たしても」 • 積と差が等しくなる 2 つの分数 • 商と和が等しくなる 2 つの分数	• 「かけても、ひいても」「わっても、たしても」答えが同じになる 2 つの分数に関心をもって取り組む。(関)(表)	—
	43	ジャンプ「いろいろな分数のかけ算・わり算」 • 分数と小数や乗除が混じった計算 • () を含む分数の計算	• 計算のきまりに従って、() を含む分数の計算が正しくできる。(関)(考)(知)	

復習

ページ	学習内容	指導時数・時期
44	既習事項の確認と持続	1時間 2学期制：12月中旬 3学期制：12月中旬

10 2つの数で割合を表そう [比とその利用]

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
• 比の意味を理解し、それを用いて2量の割合を表すことができる。また、等しい比について知る。 • 比を使った問題を解くことができる。		D(1) 内容の取扱い(8)	5時間 2学期制：1月中旬～下旬 3学期制：1月中旬～下旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点
(課題設定)	45	• ドレッシング作りの場面による比の学習への動機づけ	• 比の意味を理解し、2量の割合を比を使って表すことができる。(表)(知)
①比の表し方	45～46	• 比の意味と表し方 ⋮, 比 【コラム】比の値	
②等しい比	47～48	• 等しい比の意味とその性質 【コラム】比を簡単にする	• 等しい比があることを知り、その性質を調べる。(表)(知)
③比を使った問題	49	• 比の一方の値がわかっているときの他方の値を求めるこ	• 比を使って、未知の値を求めることができる。(考)(表)
たしかめ道場	50	• 4観点に基づく評価とふりかえり	
みらいへのつばさ	51	ステップ「等しい比づくり」 • 等しい比をつくること	• 比が等しいことの意味を理解し、等しい比をつくることができる。(関)(表)
	52	ジャンプ「いろいろな比」 • 比例配分 • 3連比	• 数量をきめられた比に配分することができる。(関)(考)(表) • 3連比の意味が理解できる。(関)(考)(知)

復習

ページ	学習内容	指導時数・時期
53	• 既習事項の確認と持続	1時間 2学期制：1月下旬 3学期制：1月下旬

◎ ドルフィンのまほう学校 割合を使って

目 標		指導要領の該当項目	指導時数・時期
• ある数を1と考え、割合の和や差を考えて解くことができる。 • 割合の差や積を考え、何倍にあたるかを考えて解くことができる。		A(2)ウ, (3)ウ 第3-1(2), (4)	3時間 2学期制：1月下旬～2月上旬 3学期制：1月下旬～2月上旬
小単元	ページ	学習内容	評価の観点
	54～56	• 割合の和、差、積を考えて解く問題	• 割合の和、差、積を考え、何倍にあたるかを考えることができる。(考)(表)

算数パスポート 6年のまとめ

ページ	学習内容	指導時数・時期
57～75	<ul style="list-style-type: none"> • 数と量 • 計算と見積もり • 図形 • 数量の関係 • 問題の見方・考え方 	14 時間 2 学期制：2月上旬～3月 上旬 3 学期制：2月上旬～3月 上旬

算数島の大冒険

小見出し	ページ	学習内容	時数
(導入)	76～77		—
二度とわたれない8つの橋	78～79	一筆書き	
星の数ほどさく花の種	80～81	等比数列と等差数列	
すばやく数えられる石だん	82～83	ガウスの方法	
古代の不思議なネックレス	84～85	メビウスの輪	
港のまほうの飛行場	86～87	平方数の和とピタゴラスの定理	
まほうにかけられた三姉妹	88～89	ハノイの塔	
消えかけた古代のへき画	90～91	しきつめ模様	
たった1つの復活のなえ木	92～93	フィボナッチ列	
石でできているのに黄金ピラミッド	94～95	黄金比	
などを解いてひらけごま	96～97	パスカルの三角形	
算数大博士のしょう号	98～99		
算数偉人伝	100～101		

※各单元末の「みらいへのつながり」および巻末にある「算数島の大冒険」には、少人数学習など個に応じた柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。すべての児童が一律に学習する必要はありません。